



志高き出る杭となる

夢甲斐塾

夢甲斐塾10周年記念誌目次

夢甲斐塾設立の精神	1
代表メッセージ	2
次期代表メッセージ・夢甲斐塾10周年宣言	3
塾長メッセージ	4
10周年実行委員長メッセージ	6
応援メッセージ	7
歴代代表メッセージ	10
出る杭活動メッセージ	12
座談会「夢甲斐塾これから」	14
10年沿革・データ	18
1期活動報告	20
2期活動報告	22
3期活動報告	24
4期活動報告	26
5期活動報告	28
6期活動報告	30
7期活動報告	32
8期活動報告	34
9期活動報告	36
10期活動報告	38
委員会活動・塾生活動	40
夢甲斐塾規約	42
塾生名簿	44
編集後記	52

夢甲斐塾設立の精神

夢 甲斐塾のねらい

四囲を急峻な山々に囲まれた山梨県(甲斐の国)は、長い歴史の中で、特色ある文化と他県とは違った県民気質をつくりあげてきた。

それは、勤勉で忍耐力がある、過度の争いを嫌う、強い連帯意識、内向的で社交下手、集団で行動する、出る杭は嫌う、などと良くも悪くも一般的に言われている、甲州人気質である。

そのために、若尾逸平、根津嘉一郎、小林一三など、独立心旺盛な数多くの財界人は、山梨(甲斐の国)の社会風土に飽きたらず、自ら活躍する場を外に求め、大きく自由に羽ばたいてきたところである。

一方、「出る杭を嫌う」、「過度の争いを嫌う」など、集団意識が強い独特の県民性ゆえ、この甲斐の国の中では特色ある地域づくりのキーマンが育ちにくい環境にあることも事実である。

21世紀の山梨づくりを考えると、自分の住む地域を何とか活性化し、世に売り出していこうという強いリーダーシップを持った人材を発掘し、育て上げることが不可欠であると同時に、こうした若者を更に大きく伸ばす県民風土にしなければならない。

すなわち「出る杭を伸ばす」という考えであり、「夢甲斐塾」は、まさにこの勇気とエネルギーを持った人材を探し出し、育てようとするものである。

産業振興、医療福祉、教育など、どんな分野からの人材でも良い。強い信念と、リーダーシップ、そしてガッツを持った地域づくりを進めていく若い人材を求めている。

夢 甲斐塾の特色

行政による人づくりは、従来、行政が企画した塾で、与えられた課題についての活動研究が一般的であった。こうしたことが、平均的なリーダーの育成には効果があるものの、塾生の自由で独創的な発想を阻害してきたことは否めない。

新しい時代の山梨を考えると、若い人材を育て、社会で活躍してもらわなければならない。そのため、行政は口を出さず、塾生自らが課題を見つけ、研究し、活動し、塾を運営することとしたい。どんな塾になるのか、すべては塾生のアイデア次第となる。

求 める塾生像

山梨の地形的な特性や厳しい自然条件により、もともと勤勉で、不屈の忍耐力を持った県民性が培われてきた。また、同時に地域づくりや環境美化運動など、住民一体となった取り組みがされるなど、連帯意識が高いという県民性もある。

将来の地域づくりのキーマンとなる塾生には、そうした県民性のほか、チャレンジ精神にあふれ、強い独立心と、好奇心あふれる豊かな個性、創造的・独創的な発想と行動を求めることとなる。

塾生には、常に現状に問題意識を持ち、確たる信念のもとで、地域を愛し、山梨を愛し、熱い志を抱き自己実現に努力している若者、強い信念とバイタリティあふれる行動力、少女のバッシングにへこたれることのない強い精神力を持った若者、魅力的で個性豊かな若者を求める。

代表メッセージ

夢甲斐塾10年に織り込まれた想い

夢甲斐塾第5代代表 厚芝 好美

私たちは、常に自らの志を問い続ける姿勢を持って日々の事に専心しているでしょうか。

そう考えた時に、この愛すべき故郷山梨に、夢甲斐塾が存在することの意味をもう一度考えてみる必要があると思います。

21世紀の始まりと共にスタートした夢甲斐塾です。山梨県の事業として出発した当初、「出る杭を打つ山梨の風土に、挫けることなく道を切り拓く次代の強いリーダーを育てたい」という大きな理念のもと第1期生が入塾しました。当時の天野建知事の山梨に込めた想いを受け、その指導者として、県関係者が全国から人選を進め、上甲斐塾長にその白羽の矢を立てました。

「熱い想いには、熱い想いで応える」という心意気の上甲塾長から発せられる数々のメッセージに、際立った「個」の集まりでもある夢甲斐塾は揺さぶられました。

塾生一人ひとりが、塾長からの深いメッセージと、お互いが放つ熱い志に刺激され合い、それぞれの持ち場、地域での大きな役割を担っていく道を進んで行きました。

そんな夢甲斐塾も、第3期生までの県の事業としての位置付けから、第4期生以降の自主運営への大きな転換を向かえました。「進むべき道は、自ら切り拓く」という姿勢で、まさに夢甲斐塾が「出る杭」になった瞬間です。自分達が主人公になる道を選んだのです。

さまざまなことを行っていくにしても、そこに「志」や「高邁なる精神」が込められているのか。何げない日常に、そうした大きな気付きに至るキッカケを夢甲斐塾はもたらしてくれます。

しかし、それは他人任せではなく、自らが一步前に出ることで可能になるのです。時には、仲間が背中を押してくれることもあるでしょう。いずれにしても、自分を見つめ、志を問い、何かに向かって動き出すことは自分次第です。

10年の節目を迎えた夢甲斐塾も、今再び、大きな転換点に立っているとと言えます。

この10年という積み重ねの財産をいかに山梨に、そして、日本に活かしていくのか。「夢甲斐塾自身の志」が問われています。

「志、高く」

前に進み続けるエネルギー、打たれても挫けない勇気、そして、仲間をやさしく支え厳しく励ます思いやり。これが夢甲斐塾の姿とも言えます。なぜなら、「夢甲斐塾こそ、大きな志を育む場」であるからです。

そして、高い志を持った夢甲斐塾生が「出る杭」となって、山梨を核に日本へ、そして世界に向けて飛び立つてほしいと願っています。常に問題意識を持ち、世の中が変化して行く時に、その中心的存在に多くの夢甲斐塾生が、居ることを願うとともに、21世紀の歴史に、多くの夢甲斐塾生の名前が刻まれることを望んでいます。

これまでの10年。夢甲斐塾に繋がってくれた多くの方々へ感謝御礼申し上げますとともに、これからも夢甲斐塾自身を、益々、叩いてくださるようお願いし、10周年を迎えた夢甲斐塾の代表の挨拶とさせていただきます。

そして、最後に、素敵な未来のために、「今一度、自らの志を問おう」



次期代表メッセージ

完成されない夢甲斐塾

夢甲斐塾第6代代表 眞壁 俊之



日本を代表する建築物のほとんどに、「完成されない美しさ」というものがある。伊勢神宮の式年遷宮をはじめ、建替えを繰り返す法隆寺の五重の塔、増築を繰り返す事で妙なる構造美を生みだした桂離宮。日本を代表する建築物は、みな建てた当初のままではなく、必ずと言っていいほど手心が加えられている。

日光東照宮も日本を代表する建築物だが、「完成されない」ということの象徴的なものが存在する。陽明門という門に模様が逆の柱があるのだ。模様を逆にすることにより、敢えて失敗を演出し「完成させない」様にしたのである。日本は古くから、「完成させない」という部分を念頭において行動してきたと思う。ちょっとした文化的なものにも、良く見れば現れている。

例えば文字。アルファベットと日本人の使う文字には決定的な差がある。それは、シンメトリの文字が日本には存在しないのだ。「大」という、一見シンメトリに見える文字も、跳ねや払いを正確に行くと、シンメトリにはならない。シンメトリというのは完成の一つのカタチなのである。

建築物や文字に見える「完成されない」という考え方の底流には、日本人が古くから持っている「完成と共に崩壊がはじまる」という意識が働いている。

夢甲斐塾も11年目を迎え、カリキュラム制の導入など変化を繰り返している。変化をしているのは完成されていない証拠だ。これは実に喜ばしい事だと思う。そして、これからも変化に富んだ夢甲斐塾であって貰いたい。

しかし、変化と言っても、ただ変化を繰り返せば良いというものでもないと思う。そこには「一本筋の通った何か」が存在していなくてはならない。先に例を挙げた建築物も、そういうものが存在している。変化を続けるあまり、この筋を忘れて崩壊してしまう例は、歴史には多々ある。夢甲斐塾の「筋」は、リーダーや出る杭を育てる事であり、凡事徹底であり、万事研修であり、何よりも志を持つ事だと思う。

ただ、この「筋」を、ずっと塾長から教えて貰っている訳にはいかない。塾生一人ひとりが、真に筋を持って夢甲斐塾を行うなら、塾長ではなく、私達がこれを伝える事ができなければいけないはずだ。いうなれば、夢甲斐塾の精神的な自立が必要になって来ると思う。

10年の長い月日が流れ、11年目からはカリキュラム制を導入するなど、新しい形の夢甲斐塾を模索している。昨今、私の様な若輩者が代表を務めるのは少々荷が重いような気がするが、「夢甲斐塾の筋」というものを念頭に置きながら、変化に富み、自立的で永続的な、夢甲斐塾になれるよう精進して行きたいと思うと共に、皆様の力添えをお願いしたいと思います。

次の10年を見据えて

夢甲斐塾10周年宣言 2011.7.5総会にて採択

私たち夢甲斐塾生は、たくましい“出る杭”となるために、夢甲斐塾を学びの場にとどまらせず行動・実践の場として、塾生が連携・協働をはかり「志をつなげ」新しい山梨の創造、日本再生の先駆けとなるべく行動を起こします。



三年目に迎えた存亡の危機 自分達の手で続けられたことに感謝

21世紀夢甲斐塾

塾長 上甲 晃

「十年、一財産」。どんなことでも、十年継続すれば、一つの財産になると、私は思っている。私の人生においても、過去に十年継続したことは、すべてが、“生涯の財産”になっている。

例えば、バングラデシュには十年間継続して毎年出掛けた。中国理解講座も、十年間、継続した。デイリーメッセージは、二十年継続している。そして、『夢甲斐塾』。今年でちょうど十年目を迎える。一財産だ。

存亡の危機もあった。「山梨百年の計を考えれば、“出る杭を打つ”ような県民性を克服しなければならない。これからは、山梨の若い人達が、世界を舞台にして、果敢に“出る杭”になっていかなければならない」。『夢甲斐塾』に託した当時の県知事天野 建さんの志だ。私は、その志に惚れ込んで、『夢甲斐塾』をお手伝いすることになった。

設立して三年目、天野さんが知事を辞されて間もなく、「この事業は所期の目的を達成したので、打ち切りたい」と、県から私に通告された。「そうですか、お世話になりました」と、私がそのまま了解していたら、『夢甲斐塾』は、三年で幕を閉じていたことになる。

「十年一財産」と信じている私からすると、三年で所期の目的を達成したとは、とても考えられなかった。まして人を育てることは、息の長い仕事である。それを三年程度で止めてしまうのであれば、私は、初めから引き受けなかっただろう。「分かりました。後は自分達でやります」と、偉そうに言い切ったのである。体裁よく言えば、“独立宣言”、“志”である。ありていに言えば、私の教育に掛ける“意地”を通したのである。

県が何もかも世話してくれていた三年間を思うと、資金面はもとより、塾生の採用から研修の段取り、何もかも自分達で賅わなければならないことは、大きな苦勞であった。私の思いを受けて、何よりも、塾生諸君は、頑張ってくれた。「自分のことを自分でする」。そんな当たり前のことを維持する大変さを痛感したはずだ。ここまで、十年の歩みができただけのも、塾生諸君の自覚と自立心、献身的な努力のおかげだ。

そして十年を経過してみて、しみじみと「よくここまでやってきたものだ」と思うと共に、塾生諸君が実にたくましくなったことに驚く。人は、自分の足で立ち、自分の足で歩いた時、初めて、本当の喜びを感じることができる。県の事業としてあのまま十年継続するよりも、自分達の手で十年も続けられたことを喜び合いたい。

塾生諸君の労を多として、心から感謝し、祝福する。人は自立を通じて、精神的に大人になれる。たくましく大人達に、乾杯。

新しい十年に向けて

『夢甲斐塾』設立十年。次の課題は、「これから先、十年をどのように進めて行くか」である。

今年の十月三十一日に、私は古希を迎える。七十歳である。「これからも今までどおりにやる」との思いはあったとしても、年齢がなかなかそれを許してくれなくなると予想される。私に代わる塾長を選ぶことも、これからの十年の大切な課題である。これについては、今後も継続して求め続けなければならない。

今後の十年を展望する時、私は、十年の節目を迎えて、『夢甲斐塾』が、“学びの場”から、“行動・実践の場”、“運動拠点”に移行していくことを、かねてから思い描いている。すなわち、今までのように、一年間、みんなで学ぶことに留まらない。『夢甲斐塾』が発信元になり、山梨をより良くしていく多様な実践活動、運動を展開していくのだ。『夢甲斐塾』が“言い出しっぺ”になって、新しい時代の山梨を開くような実践活動、社会運動を積極的に展開していくのである。

実践の運動は、多岐にわたっていい。むしろ、多岐に渡れば渡るほど、望ましいとも言える。「日本一、健康な地域づくり運動」もよし、「日本一、礼儀正しい地域づくり運動」もよし、「日本一のブドウとワインづくり運動」もよし、「日本一、日本の良さが息づく地域づくり運動」もよし。実践活動、運動のテーマについては、これでなければならないといった制約はないほうがいい。過去の十年に学んだすべての塾生を巻き込んで、塾生諸君がそれぞれに話し合っ、実践行動を開始するのだ。その時には、期生を越えている。取り組みの期間は、十年、二十年、三十年にわたることも予想される。長期に渡れば渡るほど、望ましい。また、一つのテーマの下に、期生を越えてメンバーが集まるのだ。

十年経てば、『夢甲斐塾』から、山梨を日本一にする活動が県全体に燎原の火のように広がり、全国的にも注目されるようになるとすれば、次の十年は、今までとは全く様相の異なる、ダイナミックで、先駆的な活動の集合体としての『夢甲斐塾』に生まれ変わっていることだろう。

その意味からも、私は、十周年記念行事が、単なる節目のお祝いの行事ではなく、新しい山梨を開く実践運動の元年になればと切に願っている。「これから、『夢甲斐塾』は、新しい山梨を開く実践運動に取り組みます。この運動には、今までの十年間、共に『夢甲斐塾』で学んだすべての塾生諸君、改めて参加してほしい」と呼び掛けるのである。十年の節目が、次の十年の力強いスタートとなることを願うばかりである。

私たち夢甲斐塾生は、たくましい“出る杭”となるために、夢甲斐塾を学びの場にとどまらせず行動・実践の場として、塾生が連携・協働をはかり「志をつなげ」新しい山梨の創造、日本再生の先駆けとなるべく行動を起こします。

10周年実行委員長メッセージ

「10年の節目」夢甲斐塾新たな出発へ

10周年実行委員長	入倉 要 (8期生)
記念誌部会長	雨宮 誠 (6期生)
記念事業部会長	横山敬功 (7期生)
記念式典部会長	家苗浩明 (8期生)

まずは、この記念誌を作成するにあたり、多くの方に協力をいただいたことに心より感謝申し上げます。過去のデータや画像が集まらず、塾生とのコンタクトもなかなか取れない中で、予想以上の難作業となりましたが、記念誌部会長の雨宮 誠 (6期) 部会長の頑張り、手伝うよと言うありがたい仲間の協力を得て、何とか完成をすることが出来ました。本当にありがとうございました。また、5期の酒井かおるさんにはプロとして絶大なる協力をいただきましたこと、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

この一年間10周年実行委員会を担当するなかで、多くの塾生や関係者の方と関わりを持たせてもらいました。その中から見えてきたのは、夢甲斐塾10年の困難の歴史でありました。塾長がなかなか決まらなかった初年度から始まり、毎年、紆余曲折があり、特に4年目は山梨県の手を離れ、先が見えない中での「決断」そして「前進」。苦労の連続だったと思います。それらの壁を乗り越えて夢甲斐塾が現在まで続いてきた理由は、上甲塾長の教え「志」があったからだと気づかされました。

私も志を引き継ぎ、「夢甲斐塾があることのありがたさ」を感謝しつつ、夢甲斐塾を立ち上げた天野建元知事の山梨の将来を思う気持ちを忘れず、次の10年先に向けて更に大きく進化した夢甲斐塾を創り上げる一員となっていきたいと思います。

<今年10周年実行委員会がおこなった事業>

1. 例会における三分間スピーチ

10周年記念式典までにまずは塾生の連携を強化しよう、または、歴史を振り返るきっかけにしようと、10期の例会にて塾生の3分間スピーチを実施しました。

2. 「夢甲斐塾のことをみんなで考えよう座談会」

塾生の連携と今後の夢甲斐塾をどうするかを検討する「夢甲斐塾のことをみんなで考えよう座談会」を11/3(水)文化の日に小瀬武道館第一会議室で開催しました。

3. 「上甲塾長とじっくり語る会」&「ゆめかい大新年会」

1/16(日) 16:00~21:00 サドヤ。上甲塾長によって、気づきをもたらした志を高めてきた塾生が、夢甲斐塾の創始の思いである「新しい時代の新しい山梨を創造する」ために何をしていくのかをテーマにフリートークの会を開催しました。

4. 復興支援事業(横山敬功部会長)

6/1に船木上次さん率いるポールラッシュプロジェクトに合流して福島県相馬郡新地町の被災地に厚芝好美・雨宮 誠・入倉 要・佐野吉彦・横山敬功の5名が入り復興支援活動を行いました。

5. 記念誌作成事業(雨宮 誠部会長)

本会計より30万円の予算で、56ページの記念誌を400部作成しました。

6. 10周年記念式典・懇親会(家苗浩明部会長)

7/31(日)に昭和町のティンカーベルで夢甲斐塾関係者100名の参加を目標に10周年の記念式典&懇親会を開催します。



応援メッセージ

夢甲斐塾の10周年に寄せて

元山梨県商工労働観光部長 篠原 洋



夢甲斐塾の10周年、誠におめでとうございます。

上甲晃先生には、ご無理なお願いをお引き受けいただき、塾生と真正面から向き合いながら導いてきていただきました。夢甲斐塾の10年の歴史は、上甲先生なくては語れません。改めて心より感謝とお礼を申し上げます。

夢甲斐塾が今日を迎えるまでには、存続の危機を何度も乗り越えてきたことは想像に難くありません。その都度乗り越え、さらに前進させてきたのは、塾生自身の熱い想いであったと思います。創設時からの幹事役であった清水康邦さんをはじめ、支え続けていただいた幹事役の皆さんに感謝し、厚くお礼を申し上げます。

夢甲斐塾は、平成12年秋、山梨県をもっと飛躍させたい、そのためには熱い想いと実践力をもった多くの若い人材を育てていかなければならないという天野 建知事の考えのもとにスタートしました。

山梨県の未来を考えた時、「出る杭」を育て、「出る杭をさらに大きく伸ばす」県民性を創っていかなければならないと強く考えていたからです。

今、毎年約20人の、目標と強い意志を持った若者が夢甲斐塾を卒業し、県下各地域、各職域で活躍しています。10年間で200人を超える「出る杭」が山梨県下に根を張っていることとなります。

出る杭の1本1本は、同時にまた新しい若い出る杭を創り、育てていく使命と役割を担っています。そのことにより、出る杭は県内各地に無限に広がっていくこととなります。

しかし、出る杭は孤独で、しかも想像を超える強い抵抗も受けます。それでも強い信念のもと、どうか志をもって歩き続けて欲しいと思います。

上甲先生の教えをはら胆の深いところに据え、志高く、出る杭の1本1本が天高くまで伸び、さらに多くの出る杭を創っていくことを心から願いながらお祝いの言葉とします。

D.M
10year

塾長 10年間
デイリーメッセージ

ここでは、例会での講話、デイリーメッセージ、主な著書などから塾生に、そして、多くの人に向け寄せられた、上甲晃塾長からの数々のメッセージのフレーズを取り上げています。

- ☆『夢甲斐塾』は、高邁なる精神を養う場である
- ☆みんなが良くなれば、自分も良くなれる（志ネットワークの誓いより）
- ☆困難が精神を鍛える
- ☆大困難は大チャンス
- ☆継続は本気さの無言の証明である
- ☆「難有り」は「有難し」に通ずる
- ☆当たり前で、差を付ける 『平凡を励む』
- ☆答えを教えて欲しいと考えるのは、安易だ。その答えを考え続けて、自らつかむところに、本当の学びがある。（デイリーメッセージ平成20年8月29日）
- ☆町の魅力は、住む人たちの魅力から始まる（デイリーメッセージ平成19年6月22日）
- ☆「日本人をもっと掘り下げる」

応援メッセージ

萌木の村代表 船木 上次

夢甲斐塾の皆さん

10周年おめでとうございます。

古里を山梨に持つ皆様が仲間を求め、共に学び人生の勝利者になる為に過ごしたこの10年。そして、一つの節目の10年。

今までの積み重ねの上に何を作るかが問われていると思います。私は、これから大事な事は、価値観の共有化だと思うのです。

戦後、日本は言葉が氾濫しています。一人一人が勝手に納得して、互いに解っているつもりでいます。しかし、行動を起こした時、それぞれが持っているイメージと違う事が良くあります。これからの時代、このイメージの共有化が求められる時代だと私は思うのです。価値=イメージ。

新しい時代、行動した時何か違う事ではなく、それぞれの役割で、一つのイメージを皆で作りに上げる時代なのだと私は思うのです。

それぞれの人には個別の能力が有ります。その個別の個性が活かされる時代。結果として作品がハーモニーとして美しく人に感動を与える事の出来る素敵な役割を皆さんで作ってください。

その事が継続した時、その土地に文化という宝物が生まれます。

今までの文化の上に新しい文化を積み上げていく責任が私達にはあると思います。皆様の未来に感動多きことを願います。



夢甲斐塾10周年記に想う

上甲 美代子

夢甲斐塾生の皆様、本当におめでとうございます。現役生は勿論、OBの皆様も、今までの御苦労や、楽しかったことを思い出しておられることでしょうか。

私は、いいとこどりの状態での参加しかできず、心苦しいのですが、実は、夢甲斐塾生と接して、山梨の人を見直しました。最初は、一同に集まって議論をしても、噛み合っているのか、いないのか?と思うこともありましたが、回を重ねて皆様とふれあうと、皆様思い

思いの活動を、実に自由にしていっしょやることに驚きました。そして、何よりも、県の事業からの独立は、本当に立派でした。そして、その後の活動は、力強く、人数もどんどん増え、まさに夢甲斐塾の存在を確立しました。多彩なメンバーに恵まれ、活発な展開をしている夢甲斐塾に心から、エールを送ります。

上甲の立ち上げた、“日本この手で何とかする”運動では、山梨からバスを仕立ててかけつけてくださいました。何という律義な方々でしょうと、私は心からうれしく思いました。そして、上甲は何と幸せな人でしょうと。私はいつも上甲に「あなたは、本当に幸せな人。自分の子どもたちでもここまではしませんよ。お父さんのためとは言え。」と言っています。

上甲は夢甲斐塾が与えられ、いささかの距離はありましたが、時間的制約の中でも、想いを受け止め、実践して下さる方の姿に、塾長冥利に尽きる思いを感じさせて頂いていることでしょうか。

私は、まちがいなく、若い人に希望を託し、それぞれの可能性を信じています。私の様な年齢になって、この様に感じさせて頂けるのは、本当に有難いことです。

皆様のこれからの活動に期待をするとともに、10周年が次のステップへのきっかけになることを信じています。これからも変わりなくよろしく。



山梨県産業労働部長 新津 修

夢甲斐塾が10周年を迎えられたことを、心からお祝い申し上げます。

県は、平成13年度に、21世紀の山梨づくりを考え、他県とは違う個性的な山梨を築くため、地域づくりに情熱を燃やす信念とリーダーシップを持った人材を育成しようと考え、いわゆる「出る杭」を伸ばすことをコンセプトに、「21世紀夢甲斐塾」を開塾しました。

「志の高い人間が日本を、地域を良くする」との信念で全国各地で講演を行っている上甲晃さんを塾長に迎え、塾生自らがその年の企画を考え活動し、これまでに200名を超える人材を輩出し、各自が自らの志で地域活動に励んでいただいています。

特に平成16年度からは、塾生による自主運営組織「夢甲斐塾」として、活発な活動を続けていただき、まさに上甲塾長の教え「自主自立」の精神を具現化する取り組みに対し、心より敬意を表すところです。

県では、県民誰もが真の豊かさを実感できる「暮らしやすさ日本一」の県づくりを目指して、着実に育ちつつある「山梨発展の芽」、すなわち将来の山梨発展に向けた変化を更に大きな成果へと結実させていくために、各種事業に取り組んでいますが、地域を良くするには、自立心と進取の気性に富んだ人材が多く育ち、志を一つにして結集することが重要です。

今後とも、皆様が、夢甲斐塾の基本理念である「自修自得」の心構えを持って、夢ある未来の為に、多くのことを学び自分の夢を育て、自らが主となり行動できる人のネットワークをひろげながら、地域づくりの「出る杭」になり、山梨を魅力ある地域にするべく活躍されることをご期待申し上げるとともに、夢甲斐塾がますます発展することを祈念申し上げます。

D.M
10 years

☆「意味が分かるからやる」、「意味が分からないからやる気になれない」などというのは、まさに、頭の中だけで考えた、「屁理屈の世界」です。

人生、時には、「意味のないこと」までやらなければならないこともあります。私の考え方は、「一見、意味のないことを、意味のあることにするのが人生であり、生きるということ」だということです。人は、すべてのことの中に意味を見つけ出す力を、本来、備えられているのです。「意味のあること」ばかりをすることが、幸せな人生でしょうか。最初は意味のないと思っていたことも、真剣に取り組むうちに、意味のあることに変わっていくのです。あるいは、意味のないことだと思って取り組んだことにたいして、人が大いに喜んでくれた時、「やって良かった」と思えるのです。言葉を変えれば、『無意味の意味化』が大切なのであります。(中略)但し、思考停止しないこと。「塾長の命令だから、何も考えず、言われたとおりに黙ってやろう」という姿勢では、いつまで経っても、その意味に気付かないのです。「求めれば会おう」。「なぜだろう」と求める心が強いほど、「なるほどそうか」と気付く力が与えられます。繰り返します。「分かったからやる」のではなく、「やって分かる」のです。そして、「意味のないように見えることを、意味あることにしていくことが、生きること」です。(デイリーメッセージ平成19年6月17日より)

☆休まないことも研修なり

☆「人を育てること」は、未来への希望の灯をともしことであると確信している。「時間が掛かるからこそ、営々と取り組む」。その姿勢こそが、未来への希望をひらいていく道なのだ。(デイリーメッセージ平成20年8月14日)

☆未来への思いは、生きる目標である。

☆人のために一番苦労した人が、一番得(感動)する

歴代代表メッセージ

人生は習慣の織物である

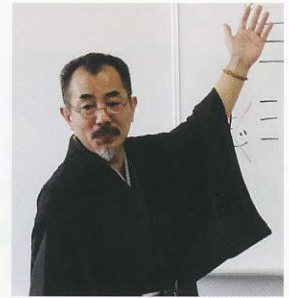
初代代表 白倉信司 (1期生)

損得勘定で生きていたわたしが夢甲斐塾に入ったのは今から凡そ十一年前。はっきりした動機などなく、何となく入った夢甲斐塾の体験がわたしの人生を変えることになった。

夢甲斐塾の塾長・上甲晃先生は損得勘定を度外視して「将来の日本を背負う志の高い若者を育てる」ために生きておられる方だった。損得勘定で生きてきたわたしには、上甲先生の生き方が最初は理解できなかった。しかし、一年間の活動を通して、上甲先生の話を通り返し聞くことで、段々上甲先生のように生きていきたいと思うようになった。

夢甲斐塾最後の日に思い切って「上甲先生のような生き方をするためには、何をすればよいのか」聞いてみた。上甲先生は「どんなに小さな事でもよいから、人のためになることを具体的に一つ決めて、とにかく毎日続けなさい」をおっしゃった。それ以来、毎日HPに、人が読んで役に立つ文章を書き続けて、この夏十年が経過する。「十年続けて一人前」とおっしゃった上甲先生の言葉を、やっと実感できるようになった。

一つの事を毎日続けると「習慣」になる。習慣は人間の徳性を磨いてくれる。まさしく、人生は習慣の織物である。



夢甲斐塾の発展は、山梨の発展なり!

第2代代表 長谷川正一郎 (2期生)

夢甲斐塾が10周年を迎えることが出来て、本当に良かったなと感激しております。

何かをはじめたら、最低10年やり通す。長いようで、短かった10年だ。

私の父親が亡くなり、もうすぐ8年を迎えるが、当時、夢甲斐塾の仲間にも大勢参列いただき、励まされたことを思い出します。

県の事業として始まった、夢甲斐塾3期生の活動中の暮れ、4期生募集をどうするか? 民営化してやっていけるのか? 会費はどうするのか? 等の話し合いが懐かしく思えます。多くの出会いや、多くの気づき。そして何より塾生それぞれの「高い志」に触られた事が、夢甲斐塾の一番の良さだと思っています。ときには、感動したり、学んだり、悩んだり、議論したり。あつという間の10年間でした。最近、夢甲斐塾にもご無沙汰していますが、メーリングリストにより情報は共有しています。

21世紀夢甲斐塾を始めてくれた、故天野建元山梨県知事をはじめ県庁の皆様、船木上次様はじめ多くの先輩の皆様、夢甲斐塾を今日まで支え、活動してきた塾生の皆様。

そして、我らの上甲晃塾長。多くの人々に支えられ、お陰様で10周年を迎えることが出来ました。夢甲斐塾に関わったすべての皆様に感謝申し上げます。

これからも、まだまだ未熟な私たちに皆様のご協力、ご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

現在、夢甲斐塾生は、11期まで入れて220名を越え、上甲塾長からの教えを頂き、志高く、夢甲斐塾生としての活動や、仕事など、いろいろな場面において、それぞれの地域で活躍しております。この夢甲斐塾が、20年、30年と続き、多くの塾生が志高く活躍することが、すなわち山梨県の発達に繋がると確信しています。

「高い志」を話すことは簡単なことです。行動で示していきましょう! いざ出陣!



夢甲斐塾10周年によせて

第3代代表 矢島孝浩 (2期生)



山梨県、日本への色々な思い!自分への思い!そんなことから夢甲斐塾2期に入塾してから早いものでもう夢甲斐塾10周年。大切な宝物です。夢甲斐塾も時代とともに様々な思いで変化を重ねてきました。しかし、ずっと変わらず塾の根底に流れている精神の一つは「出る杭」だと思います。些細なことにとらわれすぎず、狭い世界のみにも留まることなくもっと広い観点を持ち、大海へと出ていく。地域、日本のリーダーとなるべく自己研鑽に励む。東日本大震災後の今、新しい日本、山梨を築いていくためにはホスピタリティーのある、新しいリーダーたちが様々な立場にて活躍していくことが求められます。上甲塾長のおっしゃる「おのれの損得を超える」ことができる塾生、リーダーを育てるべく、今後の夢甲斐塾の活動、発展に期待します。同時に私自身も塾生の一人として創塾の精神を見つめなおし、自己研鑽に励みます。皆様と共に夢甲斐塾を続けましょう。

新たな10年のスタートに

第4代代表 清水康邦 (3期生)



設立当初は、まるで空想のようにも思えた夢甲斐塾の10周年でしたが、本日迎えることができました。ここまで継続してこられたのも、塾を応援して下さる多くの皆様がいだからこそだと感謝しております。

2001年、21世紀の幕開けとともに始まった「21世紀夢甲斐塾」には、今までの県事業にはない少しの違いがありました。1つは、1年間の研修期間が年度をまたいで12ヶ月間確保されていることです。通常の県事業は年度末の3月に終わらなければならないため、1年間とは言っても12ヶ月ないのです。

もう1つの違いは、塾長が知事ではないことでした。当時の知事が上甲晃塾長に全幅の信頼を寄せ、「金は出すが口は出さない」という姿勢を貫いていました。この押しつけけないことにより、夢甲斐塾に自修自得や万事研修の風土が生まれたのだと思います。

4期から自主運営となり、一時入塾者数が減ったときは存続も危ぶまれましたが、近年は入塾者数も安定してきました。また、10年で塾に区切りを付けるべきか悩む時もありましたが、若い力が次々育っていることで、塾の継続という面では不安がなくなりました。

ただ、これまでの10年間を振り返ると、塾を継続させるということは何より優先してきたように思います。その結果、個々の塾生が出発してから何を実践しているかにスポットを当てること、さらには実践している塾生同士をつなげていくことが不十分だったという反省点もあります。

塾での研究テーマは、各期により、また各チームにより異なりますが、10年を経て私が感じるのは、日本の良い伝統・文化・食・豊かな環境などを次世代に継承していこうという意識が、各塾生に共通していることです。ここに、今後夢甲斐塾が実践すべき活動のヒントがあると思います。

仲良しクラブで終わらない、「出る杭を育てる」集団として、この10周年が新たなスタートとなります。

D.M
10years

☆己の損得を超えて、みんなの損得を本気に考える
☆人間的魅力(=三力)とは、自力・地力・志力である

出る杭活動メッセージ

出会い

武藤傳太郎（1期生）



人生は、出会った人で決まり、邂逅で展開します。

人と人とのかかわりは、人生の骨格を作るものなのです。私が、様々な困難に遭遇しながらも今日まで歩いてこられたのは、行き先を鮮やかに示してくれた諸先輩、友人たちが、居てくれたおかげです。

「夢甲斐塾」での出会いは、さらに新鮮な彩りと、指針を確かなものにするものでした。感謝の念でいっぱいです。

「夢甲斐塾」も十年の活動を終え、これから第2ステージです。

今、私達は、社会の為、ひとの為、何をどう実践するか、心のかよう仲間、組織の出会いを大切に初心に戻って、考え、汗水流し行動を起こす時です。

期待しております。

※武藤さんは、富士吉田で「ミルククイーン」という品種の米作りに取り組む。全国食味分析コンクールで、金賞を4度受賞するほどの米作りを、さまざまな格闘を続けながら実践しています。

10周年記念

高野 豊（4期生）



私は、夢甲斐塾四期生のオチコボレ、である。こんなオチコボレにも影響を与えているのだから、大したものである。学んだのは、『本物』とはナニかである。私は、「桜座スクエア」という、地域おこしを目的にした月刊情報紙をボランティアで作っている。50年後、100年後の読者に向けての、云わば“タイムカプセル”だ。この時代の人々が、何を思い、何を語り、何ををしたのかの記憶である。この六年間は、暴風雨の連続であった。そんな私の、心の支えは、夢甲斐塾。十年続けて、塾長に報告できるか、それが私の勝負である。

未来への種まきを始めた。御当地ヒーロー『甲州戦記サクライザー』がそれである。TVやショーで、県内各地を駆け巡っている。TV局やプロダクションが主導しない、前例のない取り組み。素人集団でどこまで行けるか。お陰さまで、発売されたDVDも、県外で人気になっている。山梨に行かないと見れない御当地ヒーロー。新たな名物作りに挑戦中だ。

D.M
10years

☆知ることは愛すること

☆「地位・肩書きで、人は切れない。人を切るとは、人を魅了するといった意味だ。人を魅了するには、高い志をもて。」（上甲塾長と親交のあった小島直記氏の言葉）

☆個性は出すものではなく、自然と出てくるもの。自分らしく取り組んでいたら、おのずと個性がにじみ出る。

☆日本人が自らの良さを自覚して、力によってではなく、自らの生き様をもって、世界に範を示す時が来ている。

☆知っている人ではなく、できる人になれ

☆志の教育—主人公意識・天下に目を向ける・行動は足元から

☆志の3原則—人生のテーマを持つ・生きる原理原則を持つ・言行一致

「夢甲斐塾」創立10周年記念大会

駅前清掃活動

有泉由樹 (5期生)



凡事徹底。上甲塾長から教わったこの言葉を実践するために、塾生のみんなはそれぞれの分野で励んでいると思います。私たちは、毎週金曜日の朝6時から、甲府駅前のゴミ拾いと公衆トイレの清掃を行っています。

なぜゴミ拾いなのか？それは、特別な能力がなくても誰でもできること（凡事）だからです。また、時間を早朝に設定したのは、夕方だと仕事や家庭の事情で参加できないことが多くなるので、朝であれば参加しやすいだろうと考えたからです。

この清掃活動は1期生が出発したすぐ後、2002年10月から始まっていますので、間もなく10年目に入ります。夢甲斐塾の中では最も長く続いている活動ではないでしょうか。

この活動を始めて自分が変わったことは、今までは道が汚れているという認識自体がなかったのに、道にゴミが落ちていることに“気付く”ようになったことです。そしてまた、生活の中でもこの“気付く”ことがいろいろな場面で役立つようになりました。

それでも始めた頃は、「こんな良い活動がなぜ広がらないのだろう」と疑問に思っていましたし、態度に出ていたかもしれません。しかし今では、そのように考えることが傲慢だったと思いますし、この活動に参加することが生活の一部として、自然体でできるようになりました。

また、清掃後の朝食会も楽しみの一つです。塾生個々の現在の活動紹介から、政治・経済、さらには今後の日本の進むべき道についてまで意見交換します。職場と家の往復だけでなく、このような第3の場があることが、私の生活を充実したものにしてくれていると感じます。

10年続けてやっと一人前と言われますので、私たちはまだ一人前にもなっていません。しかし、今まで誇れるものがなかった私にとって、凡事徹底を実践することが徐々に自信になって来ています。やり続けたからこそ自信になり、自信になったからこそ続けられるようになったのだと思います。そのきっかけを作ってくれた夢甲斐塾に本当に感謝しています。

山梨に出逢う

木村由紀子 (6期生)



私は最近ますます故郷「山梨」が好きになっています。それは知れば知るほど、暮らしている山梨の素晴らしさを実感するからです。

私にその大切なことを教えて下さったのが上甲塾長、そして夢甲斐塾の仲間です。

「故郷を愛するには、まず故郷を知るところから」という塾長の言葉は、今も心に強く残っています。

私は縁あって甲斐源氏小笠原一族が築き上げた小笠原流礼法と出会うことができました。これからも私の生涯の心の柱になります。この礼法の心について多くの方に紹介、お伝えしたいと思っています。入塾する前は、ここまでの強い思いではありませんでした。しかし、塾長にお会いし、背中を押していただきました。夢甲斐塾には悲しい時に共に泣いてくれる仲間もいますが、うれしい時に共に心から喜んでくれる仲間がいます。これから入塾される方にも、ぜひそんな仲間づくりをしてもらいたいと思っています。

座談会「夢甲斐塾これから」

夢甲斐塾のことをみんなで考えよう座談会
開催日時:H22年11月3日(水)文化の日
開催会場:小瀬スポーツ公園武道館第一会議室

主催:10周年実行委員会
司会:雨宮誠(6期生・記念誌部会長)
コーディネーター:入倉要(8期生・10周年実行委員長)



テーマ

1

「自己紹介」「当時の夢甲斐塾」「夢甲斐塾で学んだこと」

パネラー1 白倉信司(1期生・初代代表。経営コンサルタント。)

- ・「出る杭を伸ばせ」をテーマに、県の事業としてスタート。
- ・塾長と、塾生は公募だった。面接で塾生20名が選ばれた。
- ・上甲先生や、刺激を受ける仲間と出逢えて良かった。
- ・当時は、集団で活動するのではなく、それぞれが、独立したリーダーとして活動していた。最近の夢甲斐塾には、違和感を感じている。



パネラー2 矢島孝浩(2期生・三代代表。歯科医師。)

- ・塾生20名。2期も公募。面接があった。
- ・「食・環境」「文化・地域」「教育」の3チームを作り、それぞれ例会を担当し、それぞれで活動していた。
- ・合宿などの行事を通じて、2期生にまとまりがでてきた。
- ・テーマ「私はこれで出る杭になる」。
- ・夏休みを返上して、シンポジウムの開催に臨み、2期生の結束力が強まった。
- ・一つのことをやりぬくことを学んだ。また、集団で何かをやる時に、みんなのために一歩前に出るということも、塾長から学んだ。



パネラー3 清水康邦(3期生・四代代表。山梨県教育委員会。)

- ・塾生27名。
- ・4期からは、県の予算なしで、自主運営となった。4期生をどうやって募集するか、また、人が集まるのか悩んだ。
- ・3期生が中心となって、1期生から4期生までを巻き込んで富士山清掃を行った。
- ・「環境・食」、「福祉の実践をした人」、「地元の偉人を研究した地域情報」の3チームで活動した。
- ・「何のために仕事をしているのか」という上甲先生からのなげかけがあり、「食べるためだったら、牛と同じ」と言われたことが、胸に響いた。





パネラー4 清野純子（5期生リーダー代理。ジュエリー企画・デザイン。）

- ・塾生21名。
- ・「みんなで一つ何かをやる」というテーマを塾長から与えられたが、なかなかまとめることが出来なかったので、「食」「福祉」「歴史文化」の3チームに別れて活動し、合宿などを通して、まとまりが出てきた。
- ・「凡事徹底」、「自修自得」、知っているだけではなく、やれる人になることを学んだ。
- ・5期の時に畑を始め、今でも継続している。



パネラー5 厚芝好美（6期生・五代代表。）

- ・塾生20名。
- ・県民の日に、地域興し交流広場に参加し、たくさんの市民団体を見て、6期生の活動内容を考えた。
- ・地域のために活動していくために、山梨の歴史を探ろうと、みんなで上野原から甲州街道を歩いた。その活動は、6回にわたり、内容をまとめ、冊子を発行した。それを踏まえて今後活動して行こうと考えていた。



パネラー6 横山敬功（7期生リーダー。ジュエリー製造・販売。）

- ・塾生16名。
- ・7期生は、地域の歴史を学ぶ事が郷土を愛することに繋がると考え、武田信玄など郷土の歴史を学び、地域の子供たちと武田神社でフィールドワークをして交流した。
- ・夢甲斐塾として初めて、青年会議所と協力して、「教育フォーラム」に参加した。子供たちと歴史クイズ大会を開催し、夢甲斐塾で作った資料を配付したり、「夢レンジャー」で夢甲斐塾をPRした。
- ・日本一の朝礼をする居酒屋「てっぺん」のセミナーに参加して、自己啓発を深めた。



パネラー7 小倉尚（8期生リーダー代理。輸入住宅販売。）

- ・塾生29名。
- ・テーマ「山梨から日本と世界を元気に」
- ・「環境」「教育」「地域活性化」の3チームで、年4回の例会を担当した。
- ・8期生は、決定がスピーディで、最初の例会から、わずか2週間後には、箸削りの先生を探して、子供たちと箸削りの場を設けることができた。
- ・現在でも「甲府大好き祭り」、「教育フォーラム」に呼んでもらい、2年続けて箸削りを出店している。
子供たちが、自分で作った箸で、「この箸で何か食べよう。きっと美味しい。」と言っているのを聞くことができたことが、8期で得たもの。
- ・「はい喜んで」の精神も、8期で学んだ。

パネラー7 小倉尚(同上)

- ・事務局を、研修部と塾生のサポート部の支柱を立てて運営して行ったらどうか。事務局を強化することによって、研修生と塾生の情報共有をしていきたい。また、箸削りに関しても、いつも同じメンバーではなく、他の塾生に参加してもらいたいが、呼びかけは一人の力ではどうにもならない。集団として活動していくためにも、事務局を強化したらどうかと思う。



パネラー6 横山敬功(同上)

- ・日本の社会情勢を踏まえた上で、夢甲斐塾がどうあるべきか考えるべき。日本人の精神を立て直すために、上甲塾長の志を、夢甲斐塾としてまとめて、後世に残して行きたい。

パネラー5 厚芝好美(同上)

- ・塾長の「出る杭を伸ばす」の精神をもとに、塾長がいなくても、自立して活動して行けるような夢甲斐塾にして行きたい。



パネラー4 清野純子(同上)

- ・凡事徹底の精神で、箸削りのような小さな活動をコツコツ続けて行ったらどうか。

パネラー3 清水康邦(同上)

- ・夢甲斐塾は、勉強会の面が強くなってしまっているが、例えば「土づくりを変えていく」というようなテーマで、活動をして行ったらどうか。また、それに賛同する11期生を募集してみたらどうか。



パネラー2 矢島孝浩(同上)

- ・夢甲斐塾が仲良し集団として活動するのは反対。今後も、「自修自得」の精神でやって行きたい。

パネラー1 白倉信司(同上)

- ・みんなで何かをやる夢甲斐塾ではなく、夢甲斐塾を出た人が、それぞれの持ち場で活躍するという啓蒙活動の場であって欲しい。
- ・上甲塾長の精神を受け継いで、次の世代のために何が出来るか考えていく夢甲斐塾であるべき。

会場からの意見

- ・今の世の中の状況を見て、夢甲斐塾として何をしていくか考えるべき。今は、仲良し集団になっているので、刺激的な夢甲斐塾になって欲しい。
(高野 4期生)
- ・夢甲斐塾に入った時、何をしたいのかわからなくて悩んだ。当初の活動





は、楽しく出来、山梨の勉強もすることができた。今後、夢甲斐塾がどのようにまとまって行くのか不安はある。(野澤 9期生)

- ・塾長から、夢甲斐塾をまとめるという大きな宿題をもらったが、現状と少し離れている。10期生としてはまとまったが、10周年をきっかけに、今後、縦にも繋がって行きたい。(三枝 10期生)
- ・夢甲斐塾の理念や、塾生の行動指針を具体的に決めたらどうか。その真意を、1期生から10期生までに問うたらどうか？(仙洞田 2期生)
- ・集団のつながりや情報交換を通して、大きい活動・小さい活動どちらかではなく、両方を意識してやっていったらどうか？(8期生 中川)
- ・何かをやるという時に、先輩のやって来たことを無視するのではなく、夢甲斐カフェのような機会や、情報を得て縦の繋がりもして活動して行きたい。(前田 10期生)
- ・その期で終わりではなく、歴代の「出る杭」の塾生とも繋がって行きたい。(前田 8期生)
- ・3年後、5年後の夢甲斐塾が想像できない。夢甲斐塾の理念を明確にして、理念を共有して活動して行ったらどうか。(柴田 7期生)
- ・縦の繋がりができる機会を待つのではなく、自分で行動すべき。お互いが動けば、時間も早く、チームワークも作れるのではないか。(玉川 2期生)
- ・10周年を記念して、事務局で夢甲斐塾の綱領を作るという話が出ている。(横山)
- ・今後、上甲塾長と関わっていくのか、塾長の教えを受け継いでいくのか。もう一度、各期で集まって今後の夢甲斐塾について話し合ったらどうか。(小川 3期生)
- ・山梨を良くしたいという思いがあったが、6期生だけの活動では限界を感じた。代表が集まって、夢甲斐塾の理念を決めるのは難しいかもしれないが、山梨を良くしたいという思いがあれば、まとまることができると思う。(渡辺 6期生)

★この座談会をうけて、平成23年1月16日(日)に「上甲塾長とじっくり語る会」を甲府駅北口のサドヤで開催しました。

P.M
10years

☆生き様は死に様である

☆「身近な人に関心を持つとともに、身近な人を幸せにすること」が志の第一歩

☆どんなに優秀な人でも、どんなに能力のある人でも、どんなに良い条件を与えられた人でも、本人に主体的な意欲がなければ、自ら持つエネルギーを爆発的に発揮することはできません。(デイリーメッセージ平成19年2月5日)

☆“美しく”と意識して、努力できるのは、人間だけだ。美しく歩く、美しく食べる、美しく座ることを意識し始めると、人間の運命は徐々に変わり始める。人間は、大げさで、難しいことや変わったことをしなくても、自らの運命を開くことができるのだ。“颯爽”、“凛々しい”、“すがすがしい”。そんな印象を相手に与えるのは、特別なことではない。誰もができる、ごくごく当たり前のことで、人間としての差がついているのだ。(デイリーメッセージ平成19年3月9日)

☆自然界の現象は、大切な“先生”

☆自分の仕事を好きになる努力をする

☆普段の生活をしっかりと励むことは、確かな生き方をする

夢甲斐塾10



天野建山梨県知事(当時)

2000年

山梨県の人材育成事業として
21世紀夢甲斐塾構想がスタート



宝物披露

2001年

5月マスコミ発表
8月塾長・第1期生決定
9月第1期生入塾 (20名)

2002年

8月第1期生出発
9月第2期生入塾 (20名)

2003年

7月第3期生入塾 (27名)
8月第2期生出発 (公開シンポジウムも開催)
12月1~3期合同研修 (萌木の村にて)

2004年

3月夢甲斐塾自主運営の総決起集会開催
4月信玄公まつりへの出店参加
7月第3期生出発 & 第4期生入塾 (22名)
12月クリスマス会開催 (萌木の村にて)

2005年

5月公開例会開催
6月入塾説明会開催
7月第4期生出発 & 第5期生入塾 (21名)

夢甲斐

1期生	20名	(男)
2期生	20名	(男)
3期生	27名	(男)
4期生	22名	(男)
5期生	21名	(男)
6期生	20名	(男)
7期生	16名	(男)
8期生	29名	(男)
9期生	32名	(男)
10期生	37名	(男)
計	244名	(男)

入塾時の居住地

甲府	75名
峡中	55名
峡北	24名
峡南	5名
峡東	35名
東部・富士	34名
県外	7名
合計	235名

※退会などで塾生名簿に住所が残っていない者あり

10年のあゆみ



☆“出発”とは、志の大切さを知ること

塾 Data

- 男性17名 女性3名)
- 男性15名 女性5名)
- 男性17名 女性10名)
- 男性14名 女性8名)
- 男性13名 女性8名)
- 男性10名 女性10名)
- 男性11名 女性5名)
- 男性19名 女性10名)
- 男性20名 女性12名)
- 男性23名 女性14名)
- 男性159名 女性85名)

2011年

3月東日本大震災
7月第10期生出発&第11期生入塾 (13名)
☆10周年記念式典開催



11期生入塾式

2010年

6月青年塾との合同研修 (和歌山・串本町にて)
7月第9期生出発&第10期生入塾 (37名)
10月甲府大好きまつり参加

2009年

3月「日本、この手で何とかする」箱根会議参加
7月第8期生出発&第9期生入塾 (32名)

2008年

3月夢甲斐カフェスタート
7月第7期生出発&第8期生入塾 (29名)
9月郷育フォーラム参加 (上甲晃講演会開催)

2007年

8月第6期生出発&第7期生入塾 (16名)

2006年

7月第5期生出発&第6期生入塾 (20名)
9月夢甲斐塾5周年記念式
11月県民の日記念行事「地域おこし交流広場」参加

	歴代代表	事務局長
1	白倉信二	矢島孝浩
2	長谷川正一郎	泉弘恵
3	矢島孝浩	多賀恵子
4	清水康邦	厚芝好美
5	厚芝好美	佐野吉彦

○新しい時代の山梨を切り拓く夢甲斐塾の船出

21世紀の山梨をリードする人材を育成するために、天野建山梨県知事の想いの下、塾長と塾生の募集が行われた。

20名の塾生募集に30名が応募。面接等を経て、20名の夢甲斐塾第1期生が決まり、9月より、夢甲斐塾の活動が始まった。

天野知事も臨席した中での初めての入塾式。

会社員から自営業者、公務員や市民活動に関わる者、年齢も20代から40代までと多彩な顔ぶれが揃ったの船出となった。

天野知事の想い、上甲塾長の熱いメッセージ。「出る杭になる」という強い志の在り方を、1年間学んでいくこと、そして、何より「新しい歴史を作る」ということへの期待が大きい塾生20名でもあった。



..... 1期生のあゆみ

2001年7月11日

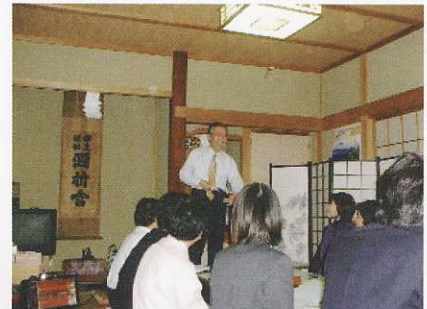
塾生選考委員会

2001年8月7日

塾長・塾生決定

2001年9月5日

入塾式・第1回例会
活動方針について話し合い
於：石和町「ホテルやまなみ」



2001年11月7日

第2回例会
酒折の宮にて塾生同士の交流を深めるプログラム
於：甲府市「酒折の宮」

2002年1月15日

第3回例会のための塾生の打合せ

2002年1月25日

第3回例会
塾長を交えた「まちづくり」をテーマにしたディスカッション
於：櫛形町小笠原「NPO法人さくらネットワーク協会事務局」

2002年3月16・17日

第4回例会（合宿例会）
塾生自ら食事の用意や宿の清掃などを行う
2日目早朝には、トイレ掃除を行い、「凡事徹底」の大切さを学ぶ
於：忍野村内野の民家



2002年4月6日

信玄公まつりでの成果発表
塾生が取り組んできた食にまつわる成果を、県下最大のイベント「信玄公まつり」で発表

テーマ「山梨新発見：食を通じて」

「ミルクQueen試食」・「黒米を使った餅つき」・「黒ビールの試飲」・「郷土料理である『みみ』の紹介販売」・「和食にあるワインの試飲」・「手作りイチゴジャムの試食販売」※すべて塾生個々がこだわり関わっているものを紹介しました

於：甲府市役所前広場



2002年5月27日

第5回例会

山梨の偉人をモデルに、山梨を知り愛し、リーダーシップについて学ぶ

於：山梨市「清白寺」

2002年7月13・14日

第6回例会（合宿例会）

塾生を講師に食や農について学ぶ

笹子ダム建設中止地を見学しダム建設についてのディスカッションを行う

夢甲斐塾のOB会となる夢甲斐ネットの設立についても議論

於：大月市

2002年8月31日

第1期生出発式

塾生からの活動報告とこれからの塾生個々の取り組みについて

於：高根町清里「ポール・ラッシュ記念センター」

1年間の活動を通して、今後の事起こしのためのステップボードにでき得るような経験や気付きに至ったこと。そして、同じ山梨に居ながらにして、知り合うことのなかった同志と出逢えたことが大きな宝物となりました。



D.M
10 years

☆夢とは困難を克服するところから実現への道を歩むのである

☆人は自分の思い以上の結果を出すことはできない

☆「人は現状に安住し、自分のことばかり考える」ようになると、どんどん、若さのエネルギーを失う

☆人生は、良き思い出の数が多いほどに、幸せを感じ取ることができるのです。

☆新しいリーダーシップとは、一からやり直しの覚悟を持って、過去のしがらみを乗り越えることから始まる。

(デイリーメッセージ平成22年1月13日)

2期生 活動報告

「出る杭になる!」と集まった夢甲斐塾2期生は、各自やりたいことや研究したいことを考慮して「食」「まちづくり」「文化」の3チームに分かれて1年間活動しました。

3月の第4例会は「まちづくりチーム」が主催で、石和町にて天野建山梨県知事(当時)との討論会を開催しました。テーマは「まちづくりとリーダーシップ」。夢甲斐塾の生みの親としての夢甲斐塾への思いや、自らの政治家人生について熱く語っていただきました。

4月は夕食をとりながら一般参加者も交えて「小笠原流礼法」を学びました。これからいろんな世界に歩いていくときにどんなところに出ても「日本人」として恥ずかしくないマナーを身に付けようと真剣に学びました。

5月は「文化チーム」主催で、テーマは「大人の林間学校」、持ち物は「思い入れのある鳴り物」。各自持参した鳴り物への思い、塾への思いを語った後、各自が持ち寄った鳴り物を演奏しました。

また、塾の番外活動として、穂刈日銀甲府支店長に「日銀の業務について」「支店長から見た甲州人気質」というテーマで講話をお願いしました。その後、懇親会にてさらに深く日銀、山梨県民への思いと掘り下げたお話もうかがえました。

6月は文化面をはじめ様々な分野で活躍している小林是綱さんを訪ね「スローライフなまちづくり」をテーマに講話を聴き、ディスカッションを行いました。

7月の合宿研修は「食」チームの主催で、NPO法人「えがおつなげて」代表の曾根原久司さんを招き、塾長を交えて討論会を開催しました。合宿に先立ち、塾生の職場(長谷川醸造、やじま歯科医院他)を塾長と共に訪問し、塾生の仕事観や生き方をライブで味わうことができました。

8月の出発式は、「夢～私はこれで出る杭になる」をテーマに公開シンポジウムを開催しました。シンポジウムにあたって、塾長より「素人のシンポジウムほどつまらないものはないから、そうならないように十分準備する事、会場をいっぱいにする事」との重い宿題をいただき、連日連夜塾生で集まり、討論、練習を重ねました。夜は湯村温泉の旅館で宿泊して打ち上げ。塾長ご夫妻も交えて一年間を振り返り楽しい一晩を過ごしました。本当に内容の濃い一年間でした。

2期はまだ山梨県の事業として募集され、1期と違い自ら「出る杭」となるべく応募してきた塾生がほとんどでした。なかなか個性あふれる出る杭候補が多く、出発式後は各方面にて個性的に活動しているメンバーがたくさんいます。自主独立が2期の個性かもしれません。

文責2期 矢島孝浩



2期例会に天野建山梨県知事(当時)をお迎えして



夢甲斐塾のメンバーが四国へ転勤することになり歓送会



日銀穂刈裕久甲府支店長(当時)をお迎えして講演会



長谷川醸造を職場見学

2期生のあゆみ

- 2002年10月10日 入塾式 ザ・ホテル紫玉苑
- 2002年10月 一年間の活動方針を話し合う。お互いの紹介
- 2002年11月15日 各チーム計画発表など シグマホール
- 2003年1月25日 合宿 勤労青年センター
- 2002年3月28日 天野建知事に学ぶ ホテルやまなみ
- 2003年4月 小笠原流礼法を学ぶ 魚閣
- 2003年5月 大人の林間学校・合宿 山中湖
- 2003年5月21日 穂刈裕久日銀甲府支店長に学ぶ 日本銀行甲府支店
- 2003年6月 小林是綱氏に学ぶ 常德寺
- 2003年7月12日 合宿例会、塾生職場訪問 大泉町
有志にて清里フィールドバレエ鑑賞
- 2003年8月30日 出発式 甲府市総合市民会館



「えがおつなげて」代表曾根原氏をお迎えして



出発式 シンポジウム



出発式 懇親会

D.M
10years

- ☆できない理由をいくらたくさん並べても、可能性の扉は開かれませんが
- ☆どこにもない特徴を、どのようにすれば最大限生かせるのかに知恵を絞る
- ☆雰囲気力は、最高の教育力
- ☆やる気を失えば、道は閉ざされる
- ☆伝えるべきことはきちんと伝え、考えてもらうべきことはきちんと考えてもらう。それが本当の親切であり、本当の思いやりです。

□チーム編成

- 環境・食チーム 生活環境、食について研究
 人チーム 教育、子育て、福祉について研究
 地域情報チーム 地域の歴史、伝統、甲州偉人について研究

□夢甲斐塾理念プロジェクトにより理念が決定

「我々は夢ある未来のために、多くのことを学び自分の夢を育て、自らが主となり行動できる人のネットワークをひろげます」

『塾存続を決めた3期』

夢甲斐塾がまだ県の事業だった当時、私は県の担当者という立場で1～2期の運営に当たっていました。塾創設に関わった私が自ら塾を3年で終了させる県予算を編成し、その後の定期人事異動によって塾の担当を外れました。そして2003年初夏。塾生になれるチャンスは最後であろうこと、そして塾の幕引きを見届けなければならないという思いから、私は3期塾生として入塾することを決めました。

3期生としての1年間、研究活動と並んで重要だったのは、塾生同士が激しい議論をし、2004年4月からの自主運営を決めたことでした。塾長の「県がやらなくて結構、後は自分達でやります」との言葉に若い塾生が乗せられた感じもしますが、それは大変心地よい気持ちだったことを覚えています。

夢甲斐塾3期生リーダー 清水康邦

3期生のあゆみ

2003年6月25日	3期塾生選考会
2003年7月11日	入塾式 紫玉苑
2003年8月19日	第1回例会 活動方針について話し合い
2003年9月10日	第2回例会(塾長例会) 活動を始めるに当たっての心構え
2003年10月21日	第3回例会 地震への備え、子育てについて
2003年11月23～24日	第4回例会(塾長例会) 泉郷 県産材を使った料理の実践 合宿テーマ「もっと自分を知ってもらって、相手も知ろう」
2003年12月16日	第5回例会 テーマ別にチーム分け
2003年12月19日	(番外編) 萌木の村でクリスマス会
2004年1月11日	環境・食チーム主催 郡内遠足 研修テーマ「山梨県各地の魅力の再発見」
2004年1月20日	第6回例会(塾長例会) 各チームの取り組み発表
2004年2月11日	環境・食チーム主催 炭焼き体験
2004年2月15日	人チーム主催 高齢・肢体不自由体験 研修テーマ「共生 人を理解する気づき」

- 2004年2月17日 第7回例会 各チームからの活動報告
- 2004年3月10日 第8回例会（塾長例会） 各チームからの活動報告、土橋信男先生講話
- 2004年3月21日 人チーム主催 赤十字防災ボランティア講習会
- 2004年4月10～11日 信玄公祭りへ出店 塾活動PR、県産材を使った料理の販売による地産地消
- 2004年4月18日 人チーム主催 視覚障害疑似体験
- 2004年4月20日 第9回例会 信玄公祭りの総括、出発式に向けて
- 2004年5月16日 人チーム主催 パパと山歩き&屋外調理+ママは子育て本音で座談会
- 2004年5月18日 第10回例会（塾長例会） 各チームからの活動報告
山梨の良いところ、悪いところについて意見交換
- 2004年5月29日 第11回例会
- 2004年7月10～11日 出発式とバスツアー 桐原（ゆずりはら）ふるさと長寿館～富士山五合目～
富士吉田青年の家（泊）～旧櫛形町曲輪田見学
- 2004年9月23日 人チーム主催 「私の宝物」交流会
- 2004年10月10日 「日本の良さを味わう一日」富士山清掃、野口健氏とパネルディスカッション



4期生 活動報告

「まずは知り合うこと」と入塾時塾長からお話をいただき、とにかくこの1年間は、「お互いを、山梨を、塾長が普段話されていることを体で知ろう。」ということ念頭に活動していきました。

毎月の例会・合宿などでは、お互いの得意分野（仕事内容）などを発表し合ったり、県内のお寺を巡り歴史を学んだり、講師をお招きしてお話を伺ったり、各自の思いを語り合うなど、社会人になるとなかなか経験できない貴重な時間を過ごすことができました。

しかしその中で、3期生までは県の事業だったものが4期生からは県の手を完全に離れすべてを自主自立で行なわなければならない、「4期生からが本当の意味での夢甲斐塾活動の真価が問われるのだ」との塾長のお言葉にどう応えていけばいいのか、どのような活動をしていけばいいのか、夢甲斐塾とは何なのか、悩み、模索する1年でもありました。

1年という活動期間で具体的に目に見えるような成果が挙げられたかといえば、まだまだ物足りないといわざるを得ません。ですが、こんなにも山梨に想いを馳せ、山梨を大切に想い、具体的に行動していこうとした1年はありませんでした。そして1人1人が自ら率先して行動しなければ何も動かないのだ、ということが身に沁みて分かった1年であり、これは大きな進歩でありました。更に、夢甲斐塾と関わらなかつたら到底出会えなかつたであろう大切な仲間、得られた「志」、この1年に心から感謝しています。

出発した今からが本番、今後は夢甲斐塾OBとして現役時に果たせなかつた「志」を具体的に行動へ移し、実践してゆきたいと考えています。

4期生はA・B・Cと3つのチームに分かれて活動しました。

Aチームは福祉・子育て支援をテーマに、Bチームは食や観光をテーマに、Cチームは町おこしをテーマに活動しました。

福祉・子育て支援をテーマに活動したAチームは子育てに悩む親と子供を集めお互いに情報交換をしたり、ネットワークを作ってもらう場を提供しようと思い、そういう親子を集めるにはどうすれば良いか？考えメンバーに乗馬に関係する方がいたので乗馬体験で親子を集めようという事になり、まず自分達がどんなものか経験する為に乗馬体験を行いました。

山梨の食・観光をテーマに活動したBチームは、峡東地域の観光名所（寺）巡りを行ないました。峡東地域の観光名所巡りを「甲斐の鎌倉散策」と称し、多くのお寺を1日見て回った。山梨に住んでいながら知らなかつた峡東地域の数多くのお寺。座禅をしたり、山梨の歴史・文化に触れた1日でした。

Cチームは甲府市中心街（シャッター街）で子育て支援施設（ハッピーキッズ）を見学後、中心街を歩き今の様子を見て回りました。やはり人の数が少なく寂しい感じがしました。

ハッピーキッズではシャッター街の実情も聞く事が出来ました。シャッター街のテナントは家賃が高く（家主は地価が高い為、固定資産税を納める為には安く賃貸させるのは厳しいそう）支援を受けても、そこに根付く事は難しい。人が集まらないシャッター街を何とかしようと思っても、障害になってしまうとの事でした。

『夢甲斐塾旗』に寄せる想い

夢甲斐塾で事あるごとに掲げられる『夢甲斐塾』と染め抜かれた紫紺の旗がある。

これは、4期生が作ったものである。

4期生は、自分達の活動の時に作った旗を誇りにしている。

どこで何をしようとも、この旗の下に志を持ち寄ることができるものと信じている。

この旗が、塾生に受け継がれていくことは、自分達が受け止めた想いや育てた志が、夢甲斐塾の歴史と共にどこまでも運ばれていくような、とても嬉しい気持ちになる。



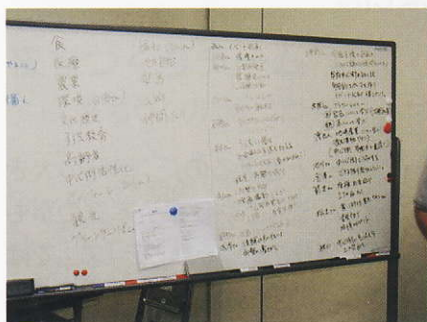
Aチームの乗馬体験の様子



乾徳山恵林寺（武田信玄の菩提寺）



子育て支援講演会の様子



D.M
10year

☆自分を計算に入れなければ、本当に強くなれる

☆「人間として魅力的」になるための学び

☆困難は、回避するためではなく、解決するために用意されている

☆「どうしてもこれを成し遂げたい」、そんな強い思いがあるからこそ、杭は出始めるのです。

☆人との縁は、消耗品ではありません。一人一人の出会いが、“人生の宝物を積み上げている”のです。

☆現場に立つ、現物に触れる。それによって、現実感覚が身に付くのだ。現実感覚を失うと、物事は抽象化して、無関心に陥る。

☆身だしなみは文化のパロメーター

☆頭に入れた知識は、すぐに忘れる。しかし、体に刻んだ学びは、生涯、消えない。

5期生 活動報告

■5期生の活動

我々5期生は、「自ら動く事」を主体に各人の得意分野の力を集大成し全員参加の活発な活動を行いました。

メインは農業・食・街づくりの3チームで、農業チームでは遊休地を利用した畑作りからスタートし、安全・安心の無農薬野菜の育成を行いました。食チームでは、日本の伝統料理「おせち」や山梨の郷土料理「ほうとう」を全て手作りに挑戦しました。農業・食チームの活動の中で、「作る過程に触れるということは、精神的にどのように影響しているのか」、「食べるということはどういうことか」、「食材・調味料の安全性は？」など、食を大事にする事の大切さを学びました。また、街づくりチームにおいては、実際に甲府市中心部に何度も足を運んだり、様々な人に教えて頂いたりする事によって、現状を把握し「街づくり」は「人づくり」だと実感しました。

そしてこれらの活動が、やがて大きな力に成る事を目指しています。

■現在の活動

たった1年で出来たつもりになってはいけない。継続出来てこそ本当に「やっている」と言えるのだ。単発の大きいことなら誰でも出来る。「知っている」ではなく「出来る事」。いかに継続して行くか。ましてや仕事や家庭の事もあり、継続することは困難の連続である。だとしたら私たちを動かすエネルギー源は何なのか。それこそ「志」ではないか。大切なのは「持った志を『忘れずに』持ち続けること」である。その為に、我々5期生は一ヶ月に1度は集まり、志を確認し合い、今までの3チームの活動をさらに進めていく。それらの活動には、他の夢甲斐塾メンバーの協力も得ながら、数年後には「夢甲斐塾生」と堂々と言えるような活動に繋げていく。未来の山梨の為に。



D.M
10years

☆“ありがとう”と感謝する一言は、人として基本中の基本である

☆教室では経験できない先生との触れ合い、そして新鮮な学びこそ、修学旅行ではないだろうか。ディズニーランドやスペイン村は、楽しむために作られた場である。学ぶためと考えるならば、行くべき場所もおのずと違ってくることだろう。

食チーム

人の輪が広がった。自分の勉強している食物には作る人、育てる人がいて、多くの未知の部分が見えるようになってきた。(平良五月)



まちづくりチーム

まちづくりは今、1つのブームになっています。まちの再生、特色あるまちづくり…いろんな声が聞こえてきます。

なぜ5期のメンバーがまちづくりというテーマを選んだのか。まず、一番最初のスタートは、山梨の財政を考えることでした。今市町村合併で市町村の数は大幅に減りました。山梨の市町村においても60あった市町村が現在は29です。そんな状況のなかで本当に県内の財政はよくなったのか、疑問に感じ始めました。そこで県内の財務諸表を勉強していくうちに、この県内の財政を解消していくには、まちを良くしたら良いのではという結論に達しました。

そして旧豊富村の道の駅に行き、循環型社会を勉強しました。現在は、山梨の顔である甲府市中心の商店街を歩き、実情を聞きながら、いろいろなことを知り、山梨の理想の未来像を模索しています。



農業チーム

「農への第一歩」

夢甲斐塾で何がやりたいか?集まった5期生の多くの人には「食」と「農」に関心が高かった。「食」と「農」は切り離せない関係であり、食の素材づくりとしての農業を始めてみよう。という事になった。

山梨県は全国でも有数の農産地帯。果樹の生産では全国一である。が、しかし…身近に農業ができる環境があるというのに、農業をよく知らない人が多かった。そんな人達の一歩前へ進んだ行動でもある。

主な活動としては、イズミ農園の勉強会。遊休農地の視察・見学。南アルプス市にある藤本さんちの畑で収穫体験。そして、自分達でゼロから野菜を作っていく「夢甲斐農園」スタート。夢甲斐農園は甲府にある酒井さんちの荒れ地を畑に変える事からスタートさせた。そして今は、7月の出発式までに収穫できる農作物を栽培中である。

「志」のある農業を目指して、出発式後も続けていくプロジェクトです。



6期生 活動報告

サッカーワールドカップドイツ大会が終わった直後の2006年7月、20名の6期生が入塾した。入塾式恒例の「私の宝物」では、自転車あり、時計や家族の写真ありと、実に多種の宝物が披露された。初めての塾長からのメッセージに、一年間の夢甲斐塾での仲間との時間に期待が膨らんでいた。

『地域おこし交流広場』

第1回例会は8月2日に行われた。

ここで、6期生の最初の活動として、11月に小瀬スポーツ公園で行われる県民の日記念事業の「地域おこし交流広場」に参加することとなった。

この地域おこし交流広場、県内のNPOや市民グループの活動披露の場であることから、夢甲斐塾ももっと外に発信するべきであり、それと同時に、他のグループとの交流もすることで、いろいろなことに気付くキッカケともなるものであった。

また、この活動を通じて、6期生が互いに知り合うことができ、一方で、何をするかで議論にばかり時間を費やすのはもったいない、1年という限られた時間の中でどれだけのことにチャレンジするのかということに、6期生の意識が結び付いたものであった。

5名の6期生からなるプロジェクトチームが主体となり、企画を練り、6期生全体で議論し、プロジェクトを進めて行った。

「自分たちにとっての夢甲斐塾とは?」をテーマにした一言コメントを集め掲示したり、塾長から直筆のメッセージを色紙に寄せてもらったり、また、山梨にまつわるクイズを会場で配布したりと、波乱の天候の中、夢甲斐塾としても初の試みを、6期生は存分に工夫し楽しんだ2日間となりました。



D.M
10year

- ☆弱いものをどんなに保護しても、決して強くなれない
- ☆“事起こし”は、継続によって運動になり、社会を変革していきます
- ☆事の成否を決めるのは、方法論ではない。信じて継続できるかどうかである。
- ☆一流とは、徹底して妥協がないことだ
- ☆過去は、今日のための“練習台”。本番は今日です。

『甲州街道を辿る』

地域おこし交流広場での6期生の繋がりをそのまま「山梨を知る」という活動に結び付けた6期生の活動。

「山梨と人と暮らし」ということを話しながら、そこに「川」があり、「道」があるということから、上野原から白州までの山梨を貫く甲州街道を辿って行こうという企画。区間を決め、12月から翌年5月までの6回で行った。その地にある歴史や文化に触れながら、山梨の越し方に想いを馳せるということで、この地に暮らすことの意味を改めて考えることとなった。

担当者が事前に情報を集め、塾生に提供していくことで、自らの役割をしっかりと担っていくというプログラムも組み入れていた。

そうした中で、山梨にも、日本に誇るべきもの（国宝や重要文化財など）があり、それ以外にも、人々が守り伝えてきたもの、大切にしてきたものがあることに気付かされた企画であった。



こうした大きな2本の活動があり、それに連なる大なり小なりの活動が6期生での一年間。今村将軍に縁の方や印伝屋・酒折の宮などを訪問しお話しを伺ったり、伊奈々湖や要害温泉での合宿例会。6期生塾生ガイドによる樹海散策ツアー。山梨学院大学クリスタルタワーを使つての公開例会。青木ヶ原樹海を抜けての出発式。先の見えない中をみんなで力を合わせ駆け抜けた6期生だからこそそのやりたい放題の一年間でした。

夢甲斐塾6期生リーダー 大崎和彦

6期生お世話係 矢島孝浩(2期)

加藤愛子(5期)



■7期活動テーマ「武田信玄と二十四将をテーマに、山梨の歴史を学ぶ」■7期リーダー 横山敬功

『夢甲斐塾に入って』

行動力のある情熱を持った人達の仲間になれば、自分も勇気を持って行動を起こせるようになるのではないかと思います。夢甲斐塾に入りました。様々な能力、経験、心を持ったメンバーに出会えただけでも入塾してよかったと思っています。入塾後、私が始めた活動としてScience Chestがあります。サイエンスをベースにしたイベントを開催したり、お手伝いしたりしています。これからの課題は、異なる色のパワーを持ったメンバー達の意見を、お互いに認め合いつつ、よりよい方向に話し合っていけるようコーディネートする能力を身に付けることでしょうか(笑)。

— 河西あゆみ

ジュエリーの会社を経営する私にとって、リーダーとはどうあるべきか、社員に何を伝えればモチベーションが上がり、活気に溢れる会社になるのかが今直面している課題です。

夢甲斐塾に入塾したのは、松下幸之助翁の教えを、上甲斐塾長を通して学べると考えたからです。その予想は見事的中しました。松下政経塾の副塾長までされた上甲斐塾長には松下幸之助翁の思想と哲学が染み込んでいるのです。全ては自分自身を高めるありがたい言葉であり、松下幸之助翁の高い精神文化だと感じております。夢甲斐塾で自分自身の人間力に磨きを掛けるべく、志の高い夢甲斐塾の仲間とお互いに励まし合いながら学んでいます。

「人間とは何か、どう生きるべきか」人間学を学べるのが夢甲斐塾なのです。真のリーダーを目指して私の学びに終わりはありません。

— 横山敬功

7期生のあゆみ

2007年8月4日	入塾式 甲府市総合市民会館 (甲府市)
2007年9月14日	土橋信男先生講演会 甲府市総合市民会館 (甲府市)
2007年9月18日	第5回例会 - 塾長講話 中央公民館 (甲府市)
2007年9月23日	居酒屋てっぺん朝礼参加 居酒屋てっぺん 自由が丘店 (東京都目黒区)
2007年10月5~6日	第1回合宿 山梨県立青少年センター (甲府市)
2007年10月21日	第8回例会 - 伊與田先生 論語公開講座 大阪産業大学サテライト (大阪市)
2007年11月1日	第9回例会 - 野口先生、塾長講話 彩の広場 (昭和町)
2007年11月10~11日	地域おこし事業 小瀬スポーツ公園 (甲府市)
2007年12月9日	第1回武田史跡めぐり 風林火山博、武田神社 (甲府市)
2008年2月1日	上原勇七会長、上甲塾長講話 (株)印傳屋 上原勇七 本社 (甲府市)
2008年2月7日	第1回夢甲斐カフェ 彩の広場 (昭和町)
2008年3月1~2日	公開例会 - 塾長講話、第2回合宿 川浦温泉山県館 (山梨市)
2008年6月15日	第8回武田史跡めぐり 上田城・砥石城 (長野県上田市)
2008年7月26日	7期出発式 & 8期入塾式 羅漢寺山(甲府市昇仙峡)、敷島総合文化会館 (甲斐市)



夢甲斐塾 七期生入塾式

入塾式



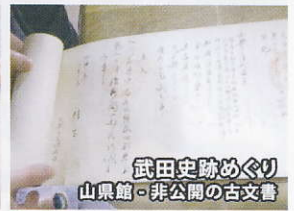
武田史跡めぐり
甲斐善光寺



居酒屋でっぺん朝礼前のミーティング



武田史跡めぐり
風林火山博



武田史跡めぐり
山梨館・非公開の古文書



武田史跡めぐり
砥石城



武田史跡めぐり
景徳院



第1回夢甲斐カフェ
「ダイオキシソって危くないの？」



第2回夢甲斐カフェ
「パステル画体験教室」



武田史跡めぐり
願成寺



武田史跡めぐり
武田八幡宮



第2回夢甲斐カフェ
「パステル画体験教室」完成作品



武田史跡めぐり
東光寺



■8期活動テーマ 山梨から日本と世界を元気に!!!

■8期リーダー 堀内美希。8期事務局 入倉 要・窪田あつ子・西田延康。8期会計 千野涼子。

□チームリーダー チームヴェルデ;宮崎みどり「地域おこし、人おこし」をテーマに活動。

チームHUG (はぐ);佐野吉彦「ハートフル甲斐」をテーマに、ありがとうカード、食うじゃん甲斐。

チームエ志(えこころざし);小倉 尚。「箸から始めるエ志」をテーマにマイ箸づくりに取組。現在もイベントや学校でマイ箸づくりを実践しています。※6 マイ箸づくりガイドブックも作成しました。

『8期リーダーになって』

夢甲斐塾8期生リーダー 堀内美希

2008年初夏。三年間の東京暮らしから帰省したばかりの私は、この自然豊かで穏やかな故郷に強く愛情を感じていました。そんな話を勤務先の店長に話したら『夢甲斐塾』の存在を紹介していただきました。入塾式を終え、8期生のリーダー選出の際は『こんな私でも山梨のために何かできることがあるかもしれない』という気持ちで立候補しました。しかしリーダーという役目を背負うと、いかに身の程知らずかを思い知らされました。次々に迫り来る行事の数々や責任の重大さに涙し、何度もめげそうになりました。でも今こうして笑顔でいられるのは、先輩や同期の塾生の支えと、上甲塾長の高い志のおかげです。同じ志を持ち、同じ目的地を目指すたくさんの仲間に出会えたことは生涯の私の宝物になりました。協力しあい、共に学び成長できる場所。それが夢甲斐塾です。

8期生のあゆみ

2008年7月26日	入塾式&懇親会 敷島総合文化会館他 ※1
2008年8月13日	第一回8月例会 甲府商工会議所「活動テーマの決定」 ※2
2008年9月7日	郷育フォーラム 山梨県立短期大学
2008年9月9日	土橋先生を囲んでの懇親会 えがおや甲府駅前店
2008年9月30日	第2回9月例会(塾長例会)甲府市南公民館
2008年10月22日	第3回10月例会 スヴァーリエヒュース
2008年11月15~16日	地域おこし事業 小瀬スポーツ公園
2008年11月21~22日	第4回11月合宿例会(塾長例会)秀森山 清水寺
2008年12月7日	第5回12月例会 葦崎文化ホール
2008年12月27日	夢会塾クリスマス会 萌木の村
2009年1月20日	第6回1月例会(塾長例会)スヴァーリエヒュース
2009年2月15日	第7回2月例会 甲斐市敷島総合文化会館
2009年3月15日	第8回3月例会「日本この手で何とかする箱根会議」 仙石原文化センター ※3
2009年4月29日	第9回4月例会「食育、食べられる野草で健康に!」 森ぴか ※4
2009年5月17日	第10回5月例会(塾長公開例会)甲府市総合市民会館 ※5
2009年6月19日	第11回6月例会 秀森山清水寺
2009年7月18~19日	8期出発式&9期入塾式 オーチャードヴィレッジ フフ



※ 1



※ 2



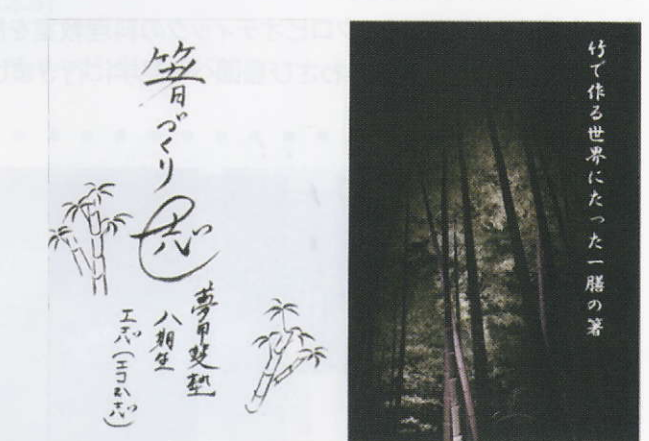
※ 3



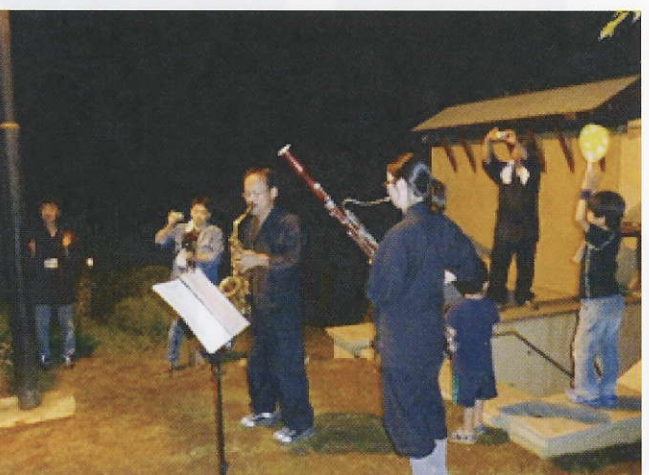
※ 4



※ 5



※ 6



9期生 活動報告

■9期活動テーマ 広がれ夢パワー! 知恵の輪 人の和 自立の我

〈9期活動報告〉

知恵の輪: 知る事は愛する事への第一歩

人の和: 相手を認め歩み寄る

自立の我: まず自分から動く人

9期生は総勢32名。3グループ(教育・環境・食)に分かれ活動しました。



◇YYクラブ

今から120年前、日本とトルコの間で起きたエルトゥールル号の物語を題材にし、当時の日本人の志や人間の絆を学ぶような紙芝居を作成しました。

◇FC09

エコって言っても情報はさまざま。自分たちの生活を知ろうと、エコの意識調査を実施。また、桂川支流の河川敷のゴミ拾いもしました。

◇サザエさんちの食卓

食の大切さを知るためマクロビオティックの料理教室を開催したり、宿泊合宿では食養についての話を聞き理解を深めました。食リーダーのわさび農園へも見学に行きました。



9期生のあゆみ

2009年7月18～19日	9期入塾式 オーチャードビレッジフフ
2009年8月	8月例会
2009年9月28日	9月例会 食グループ
2009年10月	10月例会 教育グループ
2009年11月14～15日	地域おこし祭り参加 小瀬スポーツ公園
2009年11月17日	11月例会 環境グループ 昭和押原公園
2009年12月5日	12月例会食グループ&忘年会 八ヶ岳アカデミー、泉郷
2010年1月27日	1月例会 環境グループ 彩の広場
2010年2月15日	2月例会 教育グループ 要害
2010年3月22～23日	3月合宿例会 食グループ 菊池様宅
2010年4月12日	4月例会 教育グループ 彩の広場
2010年5月10日	公開例会 スコレーセンター
2010年6月16日	6月例会 環境グループ 彩の広場
2010年6月26～27日	青年塾合同合宿 和歌山県串本町
2010年7月3～4日	9期出発式、10期入塾式 オーチャードビレッジフフ



D.M
10years

☆やれる時、やれることを、迷わずやる

☆妥協と迎合で、人は育たない

☆励ましながら押し出す

☆真理は平凡の中にある

☆一日生きていれば、一つぐらい感動のある生き方をしたい。一つぐらい発見のある生き方をしたい。そしていつまでも、日々新たにしたい。

10期生 活動報告



10期生活動グループ

- Y YYMD(テーマ:教育) 子供の笑顔は大人の笑顔から!! リーダー:三枝あゆみ
- ☑ 夢甲斐シューレ(テーマ:食) 自給自足を目指して頑張ります。 リーダー:上村英司
- あ あさぎ(テーマ:伝統文化) 日本の伝統文化の素晴らしさを伝えます。 リーダー:保坂浩輝
- 戦 夢甲斐戦略室(テーマ:コラボレーション) 山梨発信の新しい「価値」を探求します。 リーダー:萩原正樹
- 医 医療グループ(テーマ:予防医学) 自然治癒力を高めよう!! リーダー:七沢ゆかり
- 環 環境グループ(テーマ:再生エネルギー) エネルギーの自給自足をお手伝いします。 リーダー:山田津太男
- 本 本グループ(テーマ:活動記録と情報発信) 夢甲斐塾10期の足跡を残します。 リーダー:内山裕之

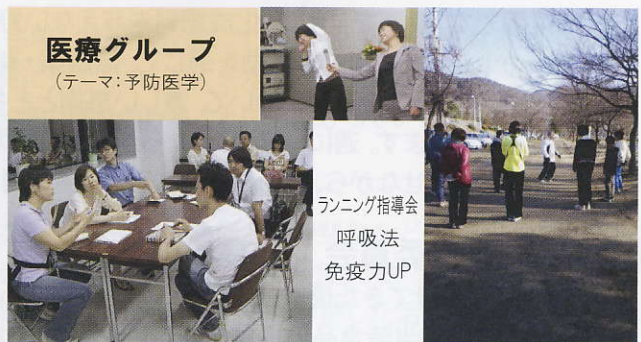
10期生の歩み

7	7月3日 (土)	入塾式
	7月23日 (金)	7月例会
8	8月20日 (金)	8月例会
9	9月25日 (土) 26日 (日)	9月合宿例会 @勝沼大善寺&勝沼中央公民館
10	Y 10月11日 (月)	日本語の時間 “笑顔であいさつ”コミュニケーションのワークショップ
	戦 10月16日 (土)	甲府大好き祭り出展
	10月18日 (月)	10月例会
	あ 10月19日 (火)	伝統文化体験講座 2010年秋「和太鼓」
11	11月3日 (水)	11月例会
	☑ 11月7日 (日)	麦畑 種まき
	11月13日 (土) 14日 (日)	地域おこし出展 @小瀬スポーツ公園
	本 11月27日 (土)	本づくりワークショップ
12	12月3日 (金)	12月例会
	☑ 12月5日 (日)	麦ふみ
1	12月26日 (日)	クリスマス会 @萌木の村
	あ 1月5日 (水)	伝統文化体験講座 2011年冬「日本のお正月を楽しもう」
	戦 1月10日 (月)	ジョブコラ10 Jan2011
	1月17日 (月)	1月例会
2	Y 1月29日 (土)	日本語の時間 “笑顔であいさつ”コミュニケーションのワークショップ (一般対象)
	戦 1月30日 (日)	ジョイコラ 初心者ゴルフスクール
	☑ 2月5日 (土)	麦ふみ
	戦 2月7日 (月)	ジョブコラ10 Feb2011
3	医 2月7日 (月)	呼吸法教室
	医 2月18日 (金)	ランニング教室
	2月23日 (水)	2月例会
	Y 2月27日 (日)	音楽の時間 “声でおえかき”即興演奏ワークショップ
4	戦 3月10日 (木)	ジョブコラ10 Mar2011
	3月11日 (金)	東日本大震災 (pray for Japan)
	医 3月12日 (土)	ランニング教室
	3月26日 (土)	3月合宿例会 東日本大震災により中止
5	Y 3月29日 (火)	体育の時間 “カラダを知ろう!”正しい歩き方教室
	医 3月29日 (火)	東京マラソンを語る会 byうっしー
6	戦 4月14日 (木)	ジョブコラ10 Apr2011
	4月18日 (月)	4月例会
7	あ 4月29日 (金)	伝統文化体験講座 2011年春「端午の節句イベント」
	医 5月10日 (火)	ランニング教室
8	5月15日 (日)	5月公開例会
	戦 5月23日 (木)	ジョブコラ10 May2011
9	医 6月12日 (日)	ランニング教室
	6月20日 (月)	6月公開例会
10	Y 6月25日 (土)	日本語の時間 “笑顔であいさつ”コミュニケーションのワークショップ
	戦 6月27日 (月)	ジョブコラ10 Jun2011
11	7月17日 (日)	出発式前夜祭
	7月18日 (月)	出発式
12	7月22日 (金)	ジョブコラ10 Jul2011

「10期生の活動を振り返って」 10期生リーダー：三枝数也

夢甲斐塾10期生は、2010年7月3日に入塾式を迎え活動をスタートしました。9月の合宿例会の際には、各チームともどんな活動を一年間行っていくかという発表を上甲塾長の前で行い、塾長より「横にも縦にも繋がる。これを意識して再度発表して下さい。」という大きな宿題を頂きました。この宿題を元に10期生全体で議論し、最終的に「**未来の生活の提案**」というテーマを決め、それに基づき横では各チームを越えて、縦には10期という枠を越えて約一年間活動を行ってきました。活動報告の場である公開例会では、「自分たちの納得のいくものを発表できた」と自負しております。今後も、この活動を継続し大きな波を山梨に、日本に、世界に作って行きたいと考えています。

10期生活動テーマ「**未来の生活の提案**」



委員会活動

一年間の研修期間を終え、出発式の後にはそれぞれの委員会に所属して活動を続けてきました。

教育・福祉委員会 真壁 俊之 (7期生)

教育福祉委員会の活動は、当初は子供たちに色々と教えようという経緯で「キッズ夢甲斐塾」というものを行いました。

また福祉面では、不定期に塾生向けに救急法の講習を行い、心肺蘇生法やAEDの使い方などを学びました。

近年では、塾生に道徳について学ぶ機会を設けるため、月一回のペースで論語の勉強会などを行っています。



歴史・文化委員会 柴田 雅央 (7期生)

日ごろは訪れることのない神社仏閣や史跡を調べたり、山梨の埋もれた偉人を調べたりする活動を行いました。山梨の歴史を理解し今大切にしたい過去の人々の価値観を感じとったりすることで、ここ山梨という地に誇りを持ち正しい道徳観のもてる人材を目指しています。

食・環境委員会 金子 政一 (6期生)

私たちは、主に「食べる」ことから人の成長と環境のあり方について考えています。そのために、私たちの日々の食べものがいかにして育ち、その安全とはどのようなものか、ということメンバーで話し合い・活動を行っています。早い話が家庭菜園です。農薬を与えず、化成肥料を与えない野菜は安全だと言われています。しかし、私たちはこの活動を通じて、無農薬・有機肥料という言葉がどれほどの重みを持っているかについて、激しい感謝とともに学びました。そして、今週も来週も学びます。週に一度、ほったらかした農園の雑草を摘み、子供たちに土の感触を学ばせながら、メンバーそれぞれの食と環境についての学び合いの場を継続していきます。



街づくり・観光委員会 長谷川 正一郎 (2期生)

7年前から、続けてきた信玄公まつりへの「焼鳥屋andその時々でいろいろ」の出店を続けてきました。出展の目的としては、①当時食品の提供が極端に少なく、来場者に喜んで貰いたかった。相当行列も出来た。信玄公まつりを盛り上げる。山梨県一のお祭りに、関わりを持つ。②夢甲斐塾が、自主運営となり、活動資金も稼ぐ。③事業(出展)を通して、活動参加者のコミュニケーションをとる。お互いを知る。

個人的な感想その場で焼いた物を、その場でお客様に食べていただくという、とてもシンプルな基本的商売の原点を学んだ。一緒に活動した仲間と楽しかった。焼き鳥を焼くのが間に合わなく、長蛇の列が出来てしまったときは、嬉しかったが、焼き鳥が冷たいという苦情(一度火が通った物なので安心でしたが。)もあった。

塾生活動

期を越えた活動です。それぞれの活動を応援し合ってチームにとらわれない形でを行っています。

夢甲斐カフェ 千野 涼子 (8期生)

夢甲斐カフェは、期を越えて交流を深めたいという思いと、その交流の中から新しい活動の芽がうまれるのではないかという期待をもって、7期の活動のなかでスタートしました。活動は、塾生が互いに得意なことを教え合い、学び合うというもので、気楽に楽しく参加できる活動にしようと、夢甲斐「カフェ」と名付けました。

〈今までの活動〉 大学の研究、星について(7期河西さん)・パステル画体験(7期堀内さん)・救急法(7期金丸さんの企画で、講師は3期佐野さん)・和菓子作り体験(7期浅川さん)・素質論講座(8期野中さん)・風水講座(8期窪田さん)・ヨガ体験(8期前田さん)・農業について(3期中沢さん)・論語(7期真壁さん)・日本酒について(8期勝俣さん)・スウェーデンについて(8期小倉さん)・マクロビオティックから学んだこと(8期奥秋さん)・今こそ己の仕事・己の心身・己の人生(9期大島さん)・小麦と山梨(6期渡辺さん)・子育て

(3期・4期泉さん夫婦)・夢甲斐塾に入って変わったこと(1期白倉さん)・100年後も山梨がワイン産地であり続けるために(4期池川さん)・箸作り体験(8期エコロザシ)・アフリカで学んで日本人という生き方(9期近藤さん)

餅つき 矢島 孝浩(2期生)

夢甲斐塾餅つき部隊は主に郷育フォーラムにて「餅つきを通じた食育」の浸透を図るべく活動をしております。今年度は東日本大震災で福島県から避難して来ている皆様とも石和にて餅つきをしました。餅は現在スーパーで袋で売っていますが、本来はお正月やお祭り、誕生や新築などの各種祝い事、あるいはお葬式の時などいろんな節目に神事や年中行事としての側面もち、大人数でつくこともおこった行事でもあります。また、もち米はお百姓さんが八十八の手間をかけて丹精込めて一年がかりで作ります。そんな大切なもち米を洗って蒸してそれからみんなですべて丸めて味をつけてやっとならぶ。そこに「行事」としての大きな楽しみもある。自分で苦労して作り上げる喜びを味わってほしい!そんな思いを込めて一同楽しみながら食育活動として餅つき部隊は活動しています。

地域おこし交流広場 雨宮 誠(6期生)

11月の県民の日に小瀬スポーツ公園で行われる記念事業に、県内のNPOや市民グループが集まるエリアで催されるイベント。6期生から参加し、毎年、各期が工夫を凝らして、夢甲斐塾のPRや活動資金の捻出に頑張っています。塾生同士が、互いを知り、繋がりを深めるという効果も。今では、夢甲斐塾はこの広場の全体運営にも欠かせない存在となっています。

信玄公祭り 雨宮 誠(6期生)

山梨の英雄“武田信玄”を偲ぶ県下最大のイベントで、毎年、舞鶴城公園にて、夢甲斐塾も塾生有志が焼鳥を販売し、祭りの盛り上げをしています。売上は塾の運営費に充てられ、広く志を高めるための活動に使われます。また、郷土を知ることの第一歩として、山梨の歴史や地域に目を向けることにも繋がっています。

郷育フォーラム 柴田 雅央(7期生)

「きょういく」から郷土(ふるさと)を育もう!をテーマに、甲府青年会議所と夢甲斐塾などの市民団体がコラボして開催している事業です。夢甲斐塾は2008年第2回開催時より「歴史クイズ大会」「餅つき大会」で参加し、2010年第4回は5つの事業で参加いたしました。各事業とも、各期が自分たちの継続した活動発表の場と、地域貢献の場として参加しています。

箸づくり 中川 徳子(8期生)

「エコロジー&志のエコロザシ」チームは環境問題に取り組む中、身近なエコ活動・持続可能なエコ活動にMy箸作りを位置付け、依頼があれば「はい、喜んで」を合言葉にお祭りやフリーマーケット、小学校等でナタ、鋸、切り出しナイフを使った竹のMy箸作りを教えています。完成したお箸で箸作法を練習し、箸袋を折って持ち帰ります。子供は「今日の夕ご飯これで食べる!」と言います。ご飯を作ってくれた人にありがとうカードを書いて気持ちを伝えてみてねと渡しています。子供も大人も手を使って道具を作り出す感動にも繋がっているようです。活動はゴミ0に取り組んでおります。



紙芝居 近藤 陽介(9期生)

9期生を中心に、日本とトルコの友情の秘密を描いた“エルトゥールル号物語”の紙芝居を作成し、県内で主に小学生を対象にした発表活動を行っています。今から120年前の先人たちの素晴らしい行いに、今に生きる私たちは助けられている。私たちも100年後の未来に生きる人々のことを考えた生き方をしていくべきではないか。そういった訴えかけをしています。今年は2作目にも取り組む予定です。



夢甲斐塾規約

(名称)

第1条 この会は、夢甲斐塾(以下「塾」という。)と称する。

(理念)

第2条 志高き出る杭となる。

(目的)

第3条 夢甲斐塾は、新しい時代の新しい山梨を創造するために、①ふるさと山梨を愛し、高い志と強い覚悟を持った「出る杭」を育て(人間力育成)、②必要時に連携・協働しうる同じ志、共通のテーマを持って活動する仲間のネットワークを構築する(仲間力構築)ことを目的とする。

(塾の構成)

第4条 この塾は、下記により構成される。

(1) 塾長

(2) 塾生

2 塾生の中から事務局を構成する。

(活動)

第5条 塾は、その理念を達成するために、次の活動を行う。

(1) 塾長の指導の下、夢甲斐塾の運営

(2) 最新年度に入塾した塾生は理念の下、1年間の研修活動

(3) 長期活動テーマを設定し、その実現のための活動

(4) 同じ志、共通のテーマを持って活動する仲間のネットワークを構築するための活動

(5) 地域を知り地域を愛するための活動

(6) 夢甲斐塾の活動をひろめ仲間を増やすための活動

(7) その他の活動

(塾長)

第6条 塾には、塾生を指導育成する塾長を置く。

(塾生)

第7条 塾生は、年会費を納める。

2 塾生は、次のいずれかに該当する者とする。

(1) 「志」(人の為に何かできる心)を持っている人

(2) 山梨をもっと良くしたいと思っている人

(3) 特色ある地域づくりをしたい人

(4) 何かで日本一になりたい人

(5) 夢を実現したい人

(6) 自分を磨きたい人

3 塾生は、総会の議決権を有する。

(入塾)

第8条 入塾を希望する者は、事務局が指定する方法に従い、入塾の諸手続きを完了しなければならない。

(会費及び会計)

第9条 年会費の金額については、事務局が提案し、総会にて決するものとする。

2 塾の会計年度は、事業年度と同じ期間とする。

3 塾運営のための予算は、事務局が提案し、総会にて決するものとする。

4 予算の執行については、会計が中心となり事務局で諮っていくこととする。

5 臨時の場合、塾生代表、副代表、及び事務局長が塾会計の中から臨機の措置をすることができる。ただし、事務局会議での承認を要することとする。

(事務局の構成)

第10条 事務局に、次の役職を置く。

(1) 塾生代表 1

(2) 副代表 1

(3) 事務局長 1

(4) 会計 1

(5) 監査 1

2 塾運営に必要な役職は別に事務局で定めるものとする。

(事務局の職務)

第11条 塾生代表は、塾生を代表し、塾を統括する。

2 塾生副代表は、塾生代表を補佐し、塾生代表に事故あるときは、その職務を代理する。

3 事務局長は、事務を統括する。

4 会計は、塾の会計を担当する。

5 監査は、塾の会計の監査をする。

6 会計及び監査は総会において、収支報告並びに監査報告を行う。

(事務局員の選任と任期)

第12条 事務局員については総会において選任する。

2 事務局の任期は、1年とする。ただし、再任は妨げない。

3 補欠による事務局の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。

(総会)

第13条 総会は、塾の事務の管理及び執行についての基本的な事項を決定する。

2 総会は、塾生代表がこれを招集する。

3 その招集については、事務局がその任を負う。

4 塾生代表は、年1回定例総会を招集するほか、必要と認めるときは、臨時総会を招集することができる。

5 総会の議長は、その総会において、出席した塾生のうちから選任する。

6 総会の議事は出席した塾生の過半数をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(事業計画及び事業年度)

第14条 事務局は、事業年度ごとに事業計画を作成し、総会に提出しなければならない。

2 事業年度は、毎年7月1日に始まり、翌年6月30日に終わる。

3 複数年度にわたる事業などに関しては、第2項によるものではない。

(規約の改廃)

第15条 この規約の改廃は、第13条第6項の規定にかかわらず、総会において出席した塾生の3分の2以上の賛成をもって決する。

(その他)

第16条 この規約に定めるもののほか必要な事項については、事務局が定める。

附則

塾長は、上甲晃とする。(敬称略)

塾生は、会費の他に会議運営費を納入する。

この規約は、平成23年7月5日から施行する。

●夢甲斐塾生募集要項

入塾条件 『志』を持っていること。または、『志』を見つけようとする姿勢を持てること。
年齢・職業等による入塾制限はありません。

活動内容 7月の入塾式から翌年の出発式までの1年間、自ら作成したカリキュラム内容で活動していただきます。
「凡事徹底・万事研修・自修自得」ということを基本に、「仲間を知り、山梨を知る」ということを大きなテーマとして、新たな入塾生がテーマを決めて活動をしていきます。

申込期間 毎年5月中旬から募集開始。6月末まで

申込方法 必要事項の連絡の他に、『私の志』をテーマに400字程度の作文を提出

塾生名簿

①氏名 ②期 ③居住地
④職場等 ⑤メッセージ



①雨宮 隆浩 ②1期生
③甲州市塩山
④雨宮労務管理事務所
⑤日々の生活に追われる毎日の中で、老眼も始まり、あれから10年経ったことに感慨もひとしおです。



①井澤 久 ②1期生
③甲府市
④
⑤



①坂本 秀二 ②1期生
③
④
⑤



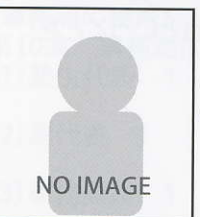
①櫻本 広樹 ②1期生
③
④
⑤



①白倉 信司 ②1期生
③甲府市天神町
④白倉事務所(経営コンサルタント)
⑤上甲晃先生の仕事観・人生観に感動して自分の志が明確になりました。以来、十年間凡事徹底を実践しています。



①中沢 雄次 ②1期生
③甲府市住吉
④甲府工業高校 機械科教員
⑤夢甲斐塾で学び、人を育てる仕事に就くことが出来ました。
継続することの大切さ、人との出会いの大切さ、忘れないようにします。



①長谷部 賢 ②1期生
③
④
⑤



①武藤 傳太郎 ②1期生
③
④
⑤



①小田切 孝 ②2期生
③甲府市幸町
④甲府市役所
⑤将棋・ワインに興味があります。



①鈴木 勲(成田 勲) ②2期生
③大月市
④
⑤魅力ある郷土発展のため、公共的な物にも関わりを持ち、地域で実践していきたい。姉妹都市との民間レベルでの交流の輪を広げたい。



①仙洞田 茂 ②2期生
③山梨市正徳寺
④アートハウス 建築の事なら何でも・リフォーム・増改築
⑤毎週金曜日 甲府駅前清掃
毎週日曜日 円光院座禅
ごみ拾い・ありがとうを一杯言う



①玉川 まなみ ②2期生
③甲府市大津
④株式会社インフィニバリュー
⑤①食育②栄養指導コーチング③特定な条件の中での食生活者に対する食生活提案④日本の米&米粉と国産食材をおいしく食べる活動



①長谷川 正一郎 ②2期生
③南アルプス市鏡中條
④南アルプスの梅ぼし屋さん
⑤南アルプス市民ミュージカル「プレミアム・ドリーム」 納税貯蓄組合・甲府法人会青年部等々 基本的には、商売を通して「地域貢献」



①羽田 明弘 ②2期生
③富士吉田市中曽根
④(有)羽田屋 金物卸売り
⑤「山梨掃除に学ぶ会」の活動のお手伝いを時々させてもらってます。



①伏見 勝 ②2期生
③
④
⑤現在指定管理者を受けた会社(ゴルフ場)で働いていますが、今後民間企業のノウハウの導入で既存の公共施設をより活性化させていきたい!



- ①矢島 孝浩 ②2期生③甲斐市西八幡
- ④歯科医師 やしま歯科医院; 予防こそ最高の歯科治療!
- ⑤「出る杭を打たない!」夢甲斐塾のもっとも基本的なコンセプトに惹かれて入塾。以来自ら出る杭となるべく志を磨いています。歯科医師の世界では飽き足らない歯科医師です。



- ①アルチョモフ 美幸 ②4期生
- ③甲府市下石田
- ④(株)アンジェベル
- ⑤ウェディングに関する全てのお手伝いを真心こめて致します。毎日、より皆様が幸せになりますよう頑張っております。



- ①天野 光明 ②3期生
- ③忍野村&富士吉田市
- ④Cross Factory(忍野村)
- ⑤自動車のカスタムデザイン等をしています。AQUA cafe Ensembleというカフェも始めました。



- ①泉 弘恵 ②4期生
- ③東京都小金井市
- ④専業主婦
- ⑤ママサークル『will party』で親子で楽しめるイベント企画をしています



- ①泉 隆 ②3期生 ③小金井市前原町
- ④(株)サンニチ印刷:地域活性化、子育て支援、地域医療
- ⑤夢甲斐塾に入って、「志」を持つ仲間だけでなく、一生の伴侶も見つけました。自分の手の届く範囲で周りの人を良くすることをモットーとしています。今はその自分の手を大きくしようとしているところです。



- ①坂本 篤彦 ②4期生
- ③韮崎市富士見
- ④(有)坂本造園
- ⑤



- ①小川 羊一 ②3期生
- ③甲府市中央
- ④小川歯科医院(歯科医師)
- ⑤身障者の歯科治療に力を入れています。



- ①高野 豊 ②4期生
- ③甲府市西高橋
- ④只今、準備中
- ⑤情報誌を作り、ラジオで喋り、TVやショーで汗を流す。志さえ忘れなければ、機会と出会いはやってくる。



- ①清水 康邦 ②3期生
- ③北杜市小淵沢町
- ④山梨県庁
- ⑤金曜早朝のゴミ拾いを甲府駅にてしています。産業振興・神社仏閣や文化財に関心を持っています。



- ①伴野 真希 ②4期生③銀座(東京都)
- ④ドイツ式メディカルフットケア J Pポドロジーサロンをしています
- ⑤本場ドイツのメディカルフットケア(Podologie)の基本理念を元に、日本人の為のフットケアJPポドロジーを日本の皆さまに広める為、日々奮闘中



- ①中沢 一成 ②3期生
- ③山梨市万力
- ④農業
- ⑤土を大切にしたい農業を進めています。



- ①箭本 靖 ②4期生
- ③韮崎市富士見
- ④アローブックばそこん教室(ITサポート業)
- ⑤



- ①望月 淳子 ②3期生
- ③甲府市富竹
- ④有限会社サンアベニュー
- ⑤インテリアコーディネーターとしてカーテンなどのウィンドウデザインをしています。ゴミ拾いをしながら、子育て・伝統芸能・環境などにも関心あります。



- ①雨宮 和仁 ②5期生
- ③甲斐市
- ④
- ⑤山梨で生まれ、育ち、それが誇りに思う、自分になりたい



- ①赤岡 禎之 ②4期生
- ③甲府市武田
- ④(株)赤岡綜合薬局
- ⑤トータルヘルスサポート がん治療在宅医療 他スピリチュアル関係



- ①有泉 由樹 ②5期生
- ③甲府市
- ④
- ⑤いろいろと経験できました。ありがとう。



- ①小澤 肇 ②5期生
- ③
- ④
- ⑤みなさん頑張ってください。僕も頑張っています。



- ①藤森 えり子 ②5期生
- ③北杜市長坂町
- ④披露宴・イベント司会 ラジオ ナレーター・リポーター
- ⑤小笠原流礼法・小筆 勉強中 将来は多くの方に伝えていきます



- ①加藤 愛子 ②5期生
- ③甲府市
- ④ビーワンという天然水を使ったリラクゼーションサロン
- ⑤夢甲斐塾に入って山梨がより好きになりました。塾の活動では駅前掃除や、畑の草取り(薬草取り)が楽しいです。



- ①厚芝 好美 ②6期生
- ③甲府市
- ④地域コミュニティ広場“花水木”(合同会社エースプランニング)
- ⑤届け!志!!



- ①酒井 薫 ②5期生
- ③甲府市塩部
- ④(有)酒井プリント社
- ⑤倫理法人会 青少年交換事業 ゴルフ



- ①金子 政一 ②6期生
- ③甲府市池田
- ④財団法人やまなし産業支援機構
- ⑤土曜日に居合道の練習 同じく土曜日に子供たちに合気道の指導



- ①清野 純子 ②5期生
- ③甲斐市
- ④ジュエリー、アクセサリーのデザイン・企画・販売
- ⑤沢山の素晴らしい仲間との出逢いに感謝!



- ①木村 由紀子 ②6期生
- ③甲府市城東
- ④株式会社ファースト企画 ビジネスマナー 小笠原流礼法
- ⑤子ども達に日本の伝統文化を通して、日本のすばらしさ、山梨のすばらしさを伝えたいと思って活動しています。



- ①多賀 恵子 ②5期生 ③甲府→仙台
- ④コーチ:リアンブルーコーチング舎
- ⑤「人と違う意見」を「へえ、そんな風に考えているの」と認め合い、「夢を語る」と「いいね、それ!やってみろし」と激励し、「失敗したこと」を「やったからだね～」と賞賛できる環境を目指す。



- ①古元 恵子 ②6期生
- ③甲府市
- ④まいづる印刷
- ⑤いろいろな人との出会いに感謝です。



- ①寺尾 敏夫 ②5期生
- ③高知県四万十市中村
- ④百姓・有機農園しきじファーム
- ⑤郷里の農村風景の荒廃に心を打たれ、農業に関心を持ちました。政治の農業政策の無策さに唖然としています。発言する上で農家の立場が必要で、地域興しをめざして百姓をやっています。



- ①流石 皇甫 ②6期生
- ③富士河口湖町
- ④キアノンアネルバ(株) 富士事業所
- ⑤理科嫌いな子供たちに科学と算数の楽しさを伝える活動をしています。



- ①中村 勝彦 ②5期生
- ③甲州市塩山
- ④
- ⑤



- ①野中 耕太 ②6期生
- ③南アルプス市
- ④会社員(化学品メーカー)
- ⑤こころざし、支えるみんなの心意気!



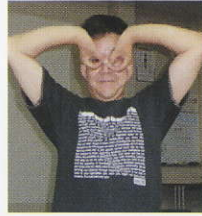
- ①藤本 好彦 ②5期生
- ③南アルプス市秋山
- ④百姓・畑の上から農業政策を提案しています。
- ⑤「農」を土台としたふるさとの文化と風土を、次の世代にどうしてもつなげたい!



- ①渡辺 知彦 ②6期生
- ③甲府市上石田
- ④(有) ヴァルト ドイツパン屋
- ⑤持続可能な生活、食



①浅川 敏彦 ②7期生
③甲府市
④竹屋あさかわ
⑤私の志は、出発式に誓った『山梨県の食材で美味しい和菓子を創る』です。今は、生産者との良縁に心から感謝しています。



①真壁 俊之 ②7期生
③韮崎市
④マカベ塗装
⑤三軍も帥を奪うべきなり。匹夫も志を奪うべからざるなり。



①一瀬 浩基 ②7期生
③市川三郷町市川大門
④金長特殊製紙(株)
⑤地元の公共機関の障子張替えボランティアを頑張っています。



①横山 敬功 ②7期生
③中巨摩郡昭和町
④株式会社カザ
⑤上甲塾長のお言葉を後世に残す活動にご参加下さる方を大募集!



①内池 敏信 ②7期生
③中央市今福
④第2の人生で、農業をしています
⑤テレビの「中高年のためのデジタル塾」で勉強しています。



①渡邊 美苗 ②7期生
③甲府市
④会社員
⑤出会いを楽しんでいます。



①河西 あゆみ ②7期生
③南アルプス市
④山梨大学
⑤山梨県立科学館のボランティアサークル「星の語り部」に参加し、星をキーワードに周りの人たちと心をつなぐ活動を行っています。



①相沢 正子 ②8期生
③笛吹市八代町
④農業と民俗
⑤若い皆様と年を忘れ、志を学び、ただ感謝です。更生保護女性会や観光ボランティアガイドをがんばっています。



①金丸 知里 ②7期生
③南アルプス市十日市場
④甲府伊奈鋼業株式会社
⑤救急法講習会などを開催してきました。興味のある方がいらっしゃればまた開催したいと思っています。



①伊藤 洋太 ②8期生
③甲府市上小河原町
④(有)スミ新建材
⑤地球温暖化防止 チーム-6℃



①斎藤 津多子 ②7期生
③北杜市高根町
④パルシステム 監事
⑤ファイナンシャルプランナー協会運営として、ボランティア活動を頑張っています。



①井上 祐宏 ②8期生
③東京都千代田区
④
⑤日本を放射能被爆から守る会実行委員長
一般社団法人エジソン・アインシュタインスクール協会専務理事



①柴田 雅央 ②7期生 ③甲斐市中下条
④山梨クラリオン(株) クラリオンガール(古!)のクラリオンの代理店です。
⑤歴史を学ぶことで自分の人生観が変化しました。武田関係の歴史が好きなので、山梨の歴史伝道者を目指しています。



①入倉 要 ②8期生 ③甲府市丸の内
④(株)イリックス;不動産とコンサルでまちづくりに貢献する会社
⑤夢甲斐塾に入って、「志」を持つ仲間に出会い、上甲塾長の教えで志を磨くことが出来ました。感謝!教育再生と甲府中心街の活性化に取り組んでいます。



①前田 友和 ②7期生
③甲斐市竜王
④株式会社カザ
⑤山梨百名山の全山登頂を目指しています。山梨の自然・文化・歴史などを自由研究して、「カイルラボ」というサイトでレポートしています。



①奥秋 浩一 ②8期生
③都留市中津森
④マクロビオティック料理
⑤食事を変えると意識と感覚が変わる。世界を変える一番の近道。



- ①小倉 尚 ②8期生
- ③笛吹市八代町
- ④スヴァーリエヒューズ(株)
- ⑤著作りたい方募集!



- ①佐野 吉彦 ②8期生
- ③甲斐市西八幡
- ④株式会社サンホーム
- ⑤自己肯定感、自尊感情を高めていくこと



- ①勝俣 陽介 ②8期生
- ③富士吉田市小見見
- ④地酒のモトヘイ
- ⑤出会いを大切に、人生にここに顔で命がけ!



- ①須山 邦昭 ②8期生
- ③甲州市塩山
- ④秀森山清水寺 住職
- ⑤母の一言が今のわたくしを形成してくれた。耐えること。人のためになること。僅かに残された人生を精一杯社会のために生きようと思う。



- ①国広 宜子 ②8期生
- ③甲府市北口
- ④株式会社グリーン・ハート
- ⑤元気な大人を増やすこと!



- ①千野 涼子 ②8期生
- ③甲府市
- ④Hair Salon ecooで働いています。
- ⑤夢甲斐塾に入って、刺激的な仲間と会えて、感謝しています。



- ①窪田 あつ子 ②8期生
- ③甲府市東下条町
- ④株式会社あつこデザインスタジオ
- ⑤風水師、空海密教祈禱師
ビジネス風水講座&空海密教あつこ塾!
参加者募集!!



- ①中川 徳子 ②8期生 ③山梨市牧丘町
- ④徳造Design; 幸せ空間Designと工事
- ⑤夢甲斐塾では仲間はもちろんの事、マクロビオティックやランニング、風水お掃除や地産地消、コーチング、コンサルティング等沢山の出会いがあり、取り入れる事を楽しんでおります。著作・著作法を教えています。



- ①桑原 浩二 ②8期生
- ③甲府市国玉町
- ④コチャー株式会社
- ⑤山梨に元気をとということで県外から講師を呼び講演会・セミナーなどのイベント活動しています (K&K)



- ①西田 延康 ②8期生
- ③韮崎市穴山町
- ④骨盤セラピスト
- ⑤ありがとうカードを世界に普及



- ①三枝 たかし ②8期生
- ③大月市初狩町
- ④笹一酒造(株)
- ⑤人生の達人になること



- ①野中 浩二 ②8期生
- ③甲府市上石田
- ④
- ⑤年月日統計学である素質論に基づいた講演やナイトビジネススクールを計画・実行中です。



- ①酒井 智彦 ②8期生
- ③南都留郡西桂町
- ④世界で3人しかいない検査員のうちの1人!
- ⑤斎藤 一人(日本一の商人)さんの教え実践中! 育児中!



- ①古屋 きよ子 ②8期生
- ③北杜市高根町
- ④森ぴか 北杜のお蕎麦屋さん
- ⑤障害を持つ子供やその親が集まれ、くつろげる場づくりを目指します



- ①坂本 亜矢子 ②8期生
- ③韮崎市富士見
- ④(有)坂本造園
- ⑤みんなが笑顔でいられること



- ①堀内 美希 ②8期生
- ③甲斐市富竹新田
- ④
- ⑤山梨を文化情緒溢れる県にすること!



- ①前田(酒井)えみ子 ②8期生
- ③南都留郡西桂町
- ④ヨガを教えています!!
- ⑤ただいま育児中です♪



- ①紺野 萌美 ②9期生 ③甲府市屋形
- ④山梨大学 工学部 循環システム工学科
- ⑤子供達に紙芝居をしたり、ゴミ拾いをするなど主に環境分野で活動しています。夢甲斐塾は志が高く優しい方達ばかりで日々様々な事を学ばせていただき、自己成長に繋がっています。



- ①宮崎 みどり ②8期生
- ③南アルプス市江原
- ④株式会社あつこデザインスタジオ
- ⑤【地球に貢献する事】同じ想いや意識を繋げて広げる。大切なこと、しあわせはいつも自分の中にある それを思い出してみんなで繋がっていこう!



- ①近藤 陽介 ②9期生
- ③都留市
- ④都留文科大学(学生)
- ⑤札幌生まれの道産子。今では山梨も北海道と同じくらい愛着があります。夢甲斐塾に入って山梨が大好きになりました!



- ①家苗 浩明 ②8期生
- ③甲府市大里町
- ④スヴァーリエヒュース(株)
- ⑤著作りたい方募集!



- ①高橋 美香 ②9期生
- ③昭和町
- ④フェアトレード・ログハウス代理店・ビーワン代理店
- ⑤人や環境に優しい仕事を指したいとおもいます。



- ①和田 幸士 ②8期生
- ③南アルプス市荆沢
- ④(有)和田電気商会とW.D.S
- ⑤音楽活動・循環型社会の構築、海外視察
クラフトビールの普及、製造、百名山登山



- ①遠山 善明(金さん) ②9期生
- ③笛吹市八代町
- ④百姓してます。現在法人化に向け準備中
- ⑤夢甲斐塾に入って、とにかく挑戦してみようという心が芽ばえました。行動しながら改善する。どうせなら「やらない」で後悔するより「やってみて」後悔しよう。後悔したら次の一歩…みんなで顔晴ろう。

夢

- ①猪瀬 信子 ②9期生
- ③北杜市
- ④ケアワーカー
- ⑤夢甲斐塾の皆さんはそれぞれ夢を持ち輝いていますね。そんな皆さんと知り合いになれて良かったです。これからもよろしくお祈りします。



- ①中山 夏瀬 ②9期生 ③甲府市上町
- ④一級建築士事務所 SPLICE建築企画(設計事務所)
- ⑤甲府市内で設計事務所をしています。
→<http://www.splice.bz> 夢甲斐塾の活動を通し、ecolに対して考えるようになりました。未来の地球のために今私たちが出来ることを!



- ①加賀美 由美子 ②9期生
- ③甲府市丸の内 ④(有)ケージーエム "パソコン教室えがお"
- ⑤パソコン教室を主宰しています。地域の方に必要とされる教室を、生徒様に喜びと安らぎを感じられる、そんな教室を目指しています。



- ①野澤 廣 ②9期生
- ③昭和町西条新田
- ④(株)ホットカンパニー (綺麗・気持ちいい・感動作りを目指す会社)
- ⑤夢甲斐塾に入って、志や自分の可能性を知りました!今までの恩を返し一つでも多く笑顔を作って行きます!



- ①久保田 健太 ②9期生
- ③群馬県④小学校教員
- ⑤今年の3月に都留文科大学を卒業し、4月から地元の群馬県で小学校の先生をやっています。日々わからないことばかりですが、感謝の気持ちを忘れずに努力していきます。どうぞよろしくお願いいたします。



- ①樋川 武 ②9期生
- ③中央市極楽寺
- ④甲府市で生命保険を使ったコンサルの仕事をしています。
- ⑤一人でも多くの方に安心をお届けする事を信条としています。



- ①桑原 かおる ②9期生
- ③富士吉田市大明見
- ④NPOまちづくりネットワークの会員であり事務の仕事に従事
- ⑤夢甲斐塾に入って9期の仲間に出会えたことに感謝です。上甲塾長の言葉を胸に、NPOを通じて富士吉田の町を活性化していきたいと思ひます。



- ①町田 綾子 ②9期生
- ③甲州市塩山
- ④飲食と接客の仕事をしています。
- ⑤縁あって出会った仲間へ感謝です。仲間から刺激を受けながら、すくすく生育中です。笑顔をみんなに届けたいです。



- ①町田 きらら ②9期生
- ③甲州市塩山
- ④
- ⑤人それぞれ考え方も学びも違うということに改めて感じました。お互いを認め合いそれぞれの意見を尊重できるようになりたいです。



- ①牛田 茂 ②10期生
- ③富士吉田市新西原
- ④整体師
- ⑤〇〇をしたい!を、身体づくりから応援します。



- ①丸山 浩 ②9期生
- ③甲府市上今井町
- ④満足度の高い生活空間を作るため、公務員として知恵を絞っています。
- ⑤さまざまな仕事・年齢の人達と知り合い、話合うことで楽しい刺激を受けています。



- ①内山 裕之 ②10期生
- ③市川三郷町市川大門
- ④公務員
- ⑤「ハレ」の日を引き継ぐ「ケ」の日々にどれだけ「わくわく」できるか?が、地域づくりの本質だと思います。



- ①望月 千波 ②9期生
- ③甲斐市篠原
- ④整体業
- ⑤山梨元気隊!



- ①大井 佳織 ②10期生
- ③大月市大月町真木
- ④ヨガ・ハワイアンフラ講師
- ⑤ヨガやフラを通して、心と身体の健康に貢献していきたいです。



- ①横井 もと子 ②9期生
- ③都留市 ④花屋
- ⑤夢甲斐塾に入ったことで、学校や仕事の中では知り合えないような人達と親しくなれ、沢山話しができ、良い経験になりました。これからもそれぞれの活動を応援し合える良き仲間であらうと思います。



- ①風間 啓紗子 ②10期生
- ③笛吹市一宮町
- ④大北農園・農カフェhakari経営
- ⑤農園と穀物菜食のカフェを拠点に、人と農と食のつながりを示していくことが私のテーマです。



- ①相澤 睦美 ②10期生
- ③富士河口湖町
- ④会社員
- ⑤勇敢な魂でありたいと思います。そのためにこころもからだもクリアにしています。



- ①菅 康仁 ②10期生
- ③甲府市
- ④デリバリーコレクション山梨:県民生活を陰で支える風俗店
- ⑤裏社会に「志」を!風俗だからできる社会活動で、暮らしのピンチを支え続けます!保護から自立へ...



- ①伊藤 利花 ②10期生
- ③都留市中央
- ④写真店経営
- ⑤あなたがうれしいと私はうれしい! ながたながさき。



- ①三枝 あゆみ ②10期生
- ③甲州市塩山熊野282-4
- ④キラリ☆塾、あゆみ音楽教室;元気な子どもを育成します!
- ⑤自らの魂の向上。仕事をとおして、生徒さんひとりひとりが持っているものを輝かせるお手伝いをします。



- ①稲葉 裕一 ②10期生
- ③静岡県富士宮市
- ④(株)アクアプラス:地球環境浄化商品の販売代理店
- ⑤富士山の南側から参加させて頂いております。人と人のつながりを大切に、人生を楽しみたいと思っています♪



- ①三枝 数也 ②10期生
- ③甲州市塩山熊野282-4
- ④キラリ☆塾、あゆみ音楽教室;元気な子どもを育成します!
- ⑤どんな夢も、100年後には当たり前になる。夢を育み、元気な思いやりのある子ども達を育成します!



- ①上村 英司 ②10期生
- ③北杜市須玉町
- ④水商売
- ⑤お酒のことならお任せ下さい。



- ①佐々木 慎一 ②10期生
- ③中央市布施2842
- ④水槽レンタル
- ⑤5年後10年後に、少しでも世の中の為になることが出来たと、実感できるように、自分が日々成長できるように努力し続けます。



- ①田中 忠 ②10期生
- ③笛吹市一宮町
- ④経営コンサルタント
- ⑤山梨県を中心に中小企業をお客様とする経営コンサルタントをしております。



- ①前田 晋吾 ②10期生
- ③甲府市塩部
- ④前田会計事務所
- ⑤人との出会いによって様々な気付きをもらっています。一期一會をモットーとして、仕事にも人生にも手加減しないように心がけています。



- ①塚本 千鶴 ②10期生
- ③甲府市千塚
- ④from-yamanashi.com
- ⑤なにげなく入った夢甲斐塾だけ。。。ユニークな仲間と出会え、とても刺激になりました。入塾してよかった!



- ①水上 宏之 ②10期生
- ③甲府市太田町
- ④自営業
- ⑤帽子のことなら何でもOKです。注文どうぞ。



- ①内藤 信代 ②10期生
- ③甲府市大和町
- ④日本料理店経営
- ⑤日本の伝統の美しさを伝えていきたいです。



- ①三井 正俊 ②10期生
- ③甲府市若松町
- ④畳店経営
- ⑤古き良き日本伝統文化を通して、教育や食を未来に伝えていく地道な活動を継続してまいります。



- ①中澤 陽子 ②10期生
- ③甲府市西高橋町
- ④会社経営
- ⑤忘己利他



- ①望月 昭男 ②10期生
- ③甲府市荒川
- ④保険代理店経営
- ⑤美と健康の研究をしたい。



- ①中山 農 ②10期生
- ③甲府市上町
- ④建築士
- ⑤Free Your Mind !!



- ①山田 津太男 ②10期生
- ③甲斐市下今井
- ④げんきっこ保育園経営 NPO法人こるだ代表理事
- ⑤希望が持てる社会にするために再生可能エネルギーの普及と次世代を担う人材を育てることが、私の使命です。



- ①七沢 ゆかり ②10期生
- ③山梨県小原東 ④セラピスト
- ⑤私の中にずっとあった『山梨もったいないな...』という思い。そして夢甲斐塾の事を知り、素敵な仲間と出会うことができました。人間力を磨き山梨の魅力、日本の魅力を伝えていきたいです。



- ①萩原 正樹 ②10期生
- ③甲州市塩山
- ④山梨県庁(H23年度は某民間会社にて研修中)
- ⑤『やってやれないことはない。やらずにやれるわけがない!』自分のことからまずは動き出そう。



- ①保坂 浩輝 ②10期生
- ③甲府市上石田
- ④自営業
- ⑤日本をより良く、元気にするため、一人一人が行動を!

編集後記

夢甲斐塾も10年という時間を積み重ねてきました。

多くの塾生は、1年という研修期間の繋がりで、「夢甲斐塾、ありがとう。自分の志を形にしていくことを頑張ります。」と言って、距離を置いていってしまいます。

7期生の活動が終盤に差し掛かった頃だったと思います。時の事務局内で、「10年目の夢甲斐塾に向けて」継続的な活動を進めていくべきではという声が上がりました。その声を受け、事務局を中心に、わずかな塾生たちで、10周年のプロジェクトはスタートしました。それまで一年ごとの活動スタイルをとっていた夢甲斐塾に、3年後を見据えての継続的な取り組みをしていく。それも、じっくりと腰を据えて行う何かが、地域や社会の大きな揺さぶりにつながるようなものとなり、「これこそが夢甲斐塾なのだ」という「存在価値」を示すことができ得ることを、3年という時間をかけて行っていく。いわば、「10年目に結実する」ことを目標と掲げました。

その時、出発式を終えたばかりの7期生の協力を得ながら、塾生にこれからの夢甲斐塾の在り方を投げかけました。

ほとんどが無反応でした。

「個々がやるべきことを頑張ればいい」という考え方だったのでしょう。

それまでの夢甲斐塾では、「個」を重んずるあまり、「力を合わせ、何かを成す」ことに関心がなかったように感じます。「個」として突き抜ければいいと思っている塾生が多かったようです。

しかし、それだけでは大きく物事は動かせないということを知らなかったのではないのでしょうか。

凡事徹底も結構。万事研修も結構。ただ、いつまでもそれに留まっていたら、夢甲斐塾としての成長はどこにあるのでしょうか。

出発した塾生諸士は、夢甲斐塾に出会ったからこそ、凡事徹底・万事研修は当たり前。そこから、次のステップ、周りの人への働きかけ、社会への投げかけへと進んでいかなくてはならないと感じます。

「そんなことはやってるよ」という塾生がいたら、問いかけたいと思います。

「夢甲斐塾からさまざまな投げかけがあった時、あなたはきちんと応えましたか」と。

諸々の事情はあるにせよ、自分の都合を優先させていませんか。投げかけをしていた塾生たちのことを慮っていましたか。

10周年を迎えるにあたり、10周年実行委員会のメンバーはじめ、夢甲斐塾の中で、少しずつ「個」が繋がりはじめました。ただ、それもまだまだ弱いように感じます。

夢甲斐塾が求める「個」が、夢甲斐塾という舞台上で力を結集していくと、とてつもない大きなものを生み出すことができるのではないかと、そんなことを感じさせてくれます。

11年目以降、夢甲斐塾をどうするのか、真剣に話をしてきました。「継続」と「解散」という二つの意見。さまざまな揺れ動きがあったにせよ、夢甲斐塾は次の10年に向け歩むことを選びました。そして、そこで求められる真剣な取り組みについて、想いをもち寄っています。それは、「継続」でもなく、「解散」でもありません。「新生」なのです。

この記念誌は、夢甲斐塾の過去を明確にし、その存在意義を示す役割があるのかもしれませんが。

しかし、十分にその目的を果たせた訳ではありません。集まった情報(夢甲斐塾の歴史)を基に、深く掘り下げることができなかつたという気持ち強いからです。

もっと良いものができたのではないかと。そう思い続けることが、ステップを一つ昇るエネルギーになります。

そうしたエネルギーを積み重ねていく夢甲斐塾であっていかなくてはならないと思います。

どんなことにも終わりが訪れます。そこが新たな始まりにもなります。

後世に検証された時、「夢甲斐塾は止め時を間違えた」と評されることがないように、一人ひとりの塾生が、「その志を、今、再び立てる時だ」ということを記して、後記といたします。

『夢甲斐塾の10年は終わった。新たなステージでの夢甲斐塾の10年が、ここから始まる。』

夢甲斐塾10周年 記念誌部会
雨宮誠(6期生)

■表紙について

私たちの住む山梨県には、思わぬ所に国の天然記念物や〇〇百選と出くわすほど、貴重な自然に囲まれています。

そして、それらの景観は、人知れず守り育てる多くの方々がいることで成り立っています。自然の持つ生命力と、それを支える人たちの心の美しさが、私たちに感動を与えてくれるのです。

表紙上の「山高神代桜」は、樹齢約二千年ともいわれる、日本最古の桜の巨木。

表紙下の「本谷川溪谷」は、「金峰山・瑞牆山源流」として選定された、名水百選(環境省)のひとつ。

表紙写真上 山高神代桜

表紙写真下 本谷川溪谷

■裏表紙について

2011.3.11

恩賜林御下賜からちょうど百年。

明治四十四年三月十一日、明治天皇陛下は度重なる水害に悩んでいた山梨県の復興のために、陛下の管轄にあった御料地のうち十六万四千ヘクタールを県の財産として与えてくださり、以後、山林をよく手入れして国土を守るようにと仰せになりました。恩賜林の面積は、県土のおよそ三分の一という規模を誇ります。県民は無計画に木を切り災害をこうむった当時のことを思い出し謝恩のための記念の事業を行っています。

【恩賜林の碑文】※当時の碑文を現代誤訳(山梨県HPより)

山梨県は高い山々や高原を持つ地形でありながら、その連峰は緑が少なく、木こりや草刈りの人々が山林を荒らしている。

一度は長雨が降ると山からの濁流が四方に押し出し、家々は土砂流に流され、田畑は水の深い所と化してしまう。

この時に明治天皇陛下のありがたい御心により、本県内にある御料地をわが県に与えられた。すべての県民は感激して陛下の御心に報いるために、将来、美しい森林が繁るようにと心から願う。陛下の御心は甚だ深く、県民は永久に感激し、堅固で美しい石を碑とし、ここに県民すべての心を刻みつける。

奇しくも恩賜林御下賜からちょうど百年にあたる三月十一日、東日本大震災が起きてしまいました。この未曾有の大災害を受けて、塾生は被災地へボランティア活動に赴いたり、県内の避難者を迎えたりとそれぞれの支援活動をしています。

編集後記

夢甲斐塾生、自らの活動範囲を拡大させてきて、
多くの学生が「自分」として活動するようになった。

